

広島大学の知に触れる情報誌

May 2024 05

HY-plus

Hiroshima University Magazine vol.24



宇宙に広がる
無限の可能性を探る

[CROSS TALK+]

自ら思考し、創造する。AI時代を生き抜くクリエイティビティ。

サイエンス作家 竹内 薫氏 + 広島大学 学長 越智 光夫

[特集] 世界に挑む広大#7

彼方に広がる宇宙への挑戦



Message from President



散 詩 語 録

助け合い精神を胸に、知見を生かす息の長い支援を

日本は地震や台風、大雪、火山活動など、自然災害が頻りに起きる国です。今年も元日早々に、石川県の能登半島で最大震度7の地震が発生し、240人を超える尊い命が失われました。犠牲となられた皆様に深く哀悼の意を表しますと共に、被災された皆様やご家族・関係者に心よりお見舞い申し上げます。

本学は地震発生を受け、関係者の安否確認を急ぎ、被害はあったものの、けが人がないことを確かめました。私は、旧知の仲である被災地、金沢大学の和田隆志学長へ、お見舞いと共に可能な限りの支援を申し出ました。さらに災害対策本部を設置し、行政などの要請に応じて、多くの医師、薬剤師、看護師らをDMATやJMATなど、医療活動や病院支援などに当たる災害派遣医療チームとして派遣し、支援に努めました。学内で義援金を募り、被災した本学の学生や金沢大学へ届けると共に、日本赤十字社へ寄附いたしました。

近年は最大震度7を記録した地震だけでも、2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震、2018年の北海道胆振東部地震があります。日本人は、多発する自然災害に対し、お互いが助け合って危機を乗り越えてきました。災害がどんなに速く起こっても、我が事として心配し、支援するのは助け合いの精神が日本人に深く根付いているからでしょう。

広島大学は、世界最初の被爆地、広島に開学している大学として、2011年の東日本大震災では、通常の医療チー

ムのほか、原発事故が起きた福島へ緊急被災医療チームも派遣しました。放射線災害に対して最大限の支援をしていくことは、本学の最も重要な使命であります。2015年までの4年間に延べ1300人以上の研究者、医師、放射線技師、薬剤師、看護師、職員らが支援にあたりました。本学の学生ボランティアも仙台市を中心に2016年まで5年超にわたり延べ200人以上が活動しました。学生と教職員による息の長い取り組みが、被災地の復興に少しでもお役に立てたのではないかと考えています。

台風も毎年のように襲来します。2018年7月、私たちは西日本を中心に発生した豪雨で被災しました。幸いにも本学にけが人はなく、被害も軽微でしたが、広島は各地で土砂災害に見舞われました。その際に全国からいただいた救援物資や義援金のほか、ボランティアの支援には感謝しかありません。この時の被災調査が防災・減災研究センターの設立につながり、能登半島地震では、同センターのメンバーが、海岸線の調査などを行いました。

災害はいつでもどこでも起こるものとして、日頃から備えると共に被災者を支えていく必要があります。いつ何時、自分に降りかかるかもしれません。能登半島の一日も早い復興をお祈りすると共に、広島大学はこれからも、医療をはじめ、あらゆる知見を生かし、災害支援に最大限努めてまいります所存です。

越智光夫

In the spirit of mutual aid, let us use our knowledge to provide long-lasting support

Japan is a country prone to frequent natural disasters such as earthquakes, typhoons, heavy snow, and volcanic activity. This year, on New Year's Day, a devastating earthquake with a maximum seismic intensity of 7 struck the Noto Peninsula in Ishikawa Prefecture, claiming the lives of over 240 individuals. I would like to express my deepest condolences to all those who have fallen victim to this tragedy and extend my heartfelt sympathies to the earthquake survivors whose property was badly damaged, their families, and all those involved.

Following the earthquake, we rushed to check the safety of everyone affiliated with Hiroshima University. We were able to confirm that, although there had been some property damage, no one was injured. As Kanazawa University is located in one of the affected areas, I expressed my sympathy to the university's President, Takashi Wada, a longtime acquaintance, telling him that Hiroshima University was ready to provide as much support as it could. This led to the prompt establishment of the following:

- 1) A Disaster Response Headquarters;
- 2) The dispatch of a number of doctors, pharmacists and nurses in the form of a disaster relief medical team (including DMATs and JMATs), to provide support for medical activities and hospitals. This was in response to local government and relevant agencies' requests;
- 3) The collection of donations on campus, not only for affected students at Hiroshima University and Kanazawa University, but also for the Japanese Red Cross Society.

In recent years, Japan has experienced the following earthquakes that recorded a maximum intensity of 7 on the Japanese seismic intensity scale: the Great East Japan Earthquake in 2011; the Kumamoto Earthquake in 2016; and the Hokkaido Iburi East Earthquake in 2018. People in Japan are used to overcoming crises by helping each other out in the face of frequent natural disasters. No matter how far away a disaster is, the spirit of mutual aid seems to be deeply rooted in the minds of Japanese people, naturally showing concern

and supporting each other as if it were their own personal matter. Given its location in Hiroshima City, Hiroshima University was the first in the world to be directly affected by an atomic bomb. As such, in the aftermath of the 2011 Great East Japan Earthquake, in addition to the usual medical team, Hiroshima University's Radiation Emergency Medical Assistance Team was dispatched to Fukushima Prefecture following the nuclear power plant accident. Providing the highest level of support in the event of a radiological emergency is one of the most important missions of the university. Indeed, between 2011 and 2015, a total of more than 1,300 researchers, doctors, radiologists, pharmacists, nurses and administrative members provided assistance. More than 200 student volunteers from Hiroshima University were also engaged in voluntary work in Sendai City and other areas between 2011 and 2016. I hope that the long-term efforts of students, faculty and administrative members have been of some help in the recovery process of the affected areas.

Typhoons also strike every year in Japan. In July 2018, Hiroshima Prefecture was affected by the torrential rain that hit Western Japan. Fortunately, no one at the university was injured, and damage to the university was minor, but many places in the prefecture were hit by landslides. The people of Hiroshima were extremely grateful for the relief supplies, donations, and volunteer support they received from all over the country following this torrential rain. Assessing the damage suffered across the prefecture at that time led to the launch of the HU Resilience Research Center. After the Noto Peninsula earthquake, members at the Center conducted a survey along the coastline of the Peninsula.

Disasters can strike anytime and anywhere, so we need to be ready for them and we need to support disaster victims whenever it becomes necessary. There is no way of knowing when you may fall victim to a disaster of any kind. As well as wishing a speedy recovery to the Noto Peninsula, Hiroshima University will do its utmost to support disaster relief by making full use of its knowledge, including medical expertise.

Osami Mitano

【Hiroshima University】の魅力や情報をあなたに“プラス(+)",【HU】とあなたが“つながる(+)"という願いを込めて。



広島大学では、果てなく広がる宇宙に秘められた謎を解き明かすべく、最先端の設備を用いた研究が進められています。

CONTENTS

- 01 散詩語録
- 03 CROSS TALK+
サイエンス作家
竹内 薫氏 +
広島大学 学長
越智 光夫
- 07 特集 世界に挑む広大 #7
彼方に広がる
宇宙への挑戦
- 11 持続可能な未来のヒント
広大 もったいなれっじ
- 13 AERAが書く 研究者の素顔
- 15 HIRODAI GLOCAL
- 19 こちらTown & Gown Office!
- 20 HIRO-DAI HEROES
- 21 卒業生インタビュー 私も広大です
- 23 HU-style
- 25 HU TOPICS
- 27 キャンパスNOW
- 28 読者アンケート・プレゼント
- 29 広島大学への寄附・基金

広島大学SNS

- 広島大学 (Hiroshima University)
- @Hiroshima_Univ
- 広島大学 | LinkedIn
- HiroshimaUniv

Instagramでキャンパスの日常を
配信中



✕ 探究型授業により 身に付けた論理的思考力

越智 初めに、幼少期の話をお聞かせください。どのような環境で過ごされたのですか。

竹内 父親の転勤で、小学校3年生から5年生までニューヨークで暮らしました。英語が全く分からず、半年間泣きながら勉強したことを覚えています。ニューヨークの学校は日本と違い、みんなでディスカッションをするアクティブラーニング型の授業や、自ら問いを立ててその答えを考える探究型の授業が活発に行われていました。そこで自己主張の大切さや、仮説を立てて検証する手法を学びました。

越智 答えのない問いに向き合い、論理的な思考を身に付けることは大切ですね。広島大学の

附属学校でも、探究型授業を積極的に取り入れています。社会的事象から課題を設定し、研究や発表を通じて思考力や課題解決力、コミュニケーション能力などを習得。中高6年間を通してグローバルリーダーの素養を養います。竹内さんは、どのような高校生活を送られましたか。

竹内 高校は筑波大学附属高等学校に進学しました。博士号を持つ先生が多く在籍されており、レベルの高い授業が行われていました。時折、大学受験に関係のない内容の授業もあり、当時は不満でしたが、今になって考えると良い授業だったと思います。部活動では馬術部に所属して主将を務め、インターハイに出場するまでのめり込みました。

越智 その後、東京大学文科一類に進学されました。多くの人は法学部を希望しますが、どうして

教養学部に進まれたのでしょうか。

竹内 法学部に進むつもりで文科一類に入りましたが、私には向いていないと気づき、教養学部で科学史や科学哲学を専攻しました。その頃ちょうどパソコンが普及し始めており、数学やアルゴリズムにも興味があったので、独学でプログラミングも習得しました。教養学部卒業後は、理学部物理学科に編入学し、現在は脳科学者の茂木健一郎氏と同じ研究室で物理に没頭していました。

越智 文理の垣根を超えて勉強されていたのですね。広島大学も、文理融合の学びにより総合的知見や思考力を養える総合科学部を1974年に設置しました。また、2020年に大学院を11

研究科から4つに統合し、2023年には複数研究科をまたぐ横断的な研究を実現するスマートソサイエティ実践科学研究院を新設しました。12学部を擁する総合研究大学の強みを生かし、異分野融合によるイノベーション創出を進めています。

✕ 科学の知識を生かして サイエンス作家として活躍

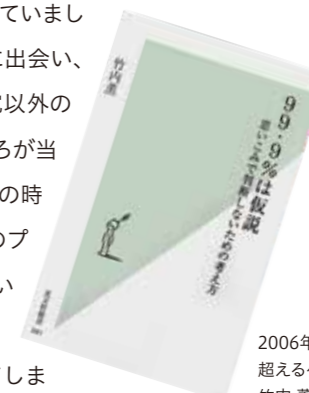
越智 東京大学卒業後は、ノーベル賞受賞者も輩出しているカナダのマギル大学大学院で物理学を学び、理学博士の博士号を取得されました。研究者の道に進む選択肢もあったのではないですか。

竹内 研究者になることも視野に入れていましたが、マギル大学で才能ある研究者に出会い、自分には到底かなわないと実感。研究以外の道を求めて日本に帰国しました。ところが当時はバブルが弾けたばかりで、就職難の時代でした。北陸地方の電機メーカーのプログラマー職を父から紹介してもらいましたが、会社員として働くことに希望を持たず入社試験をすっぽかしてしまい、申し訳ないことをしました。

越智 会社員として勤めることももちろん立派な選択肢の一つですが、私は広島大学の学生にアントレプレナーシップ(起業家精神)を持ってもらいたいと考えています。「ひろしまアントレプレナーシッププログラム」や「ひがしひろしま創業塾」では、起業に必要なベンチャーマインド(決断力や挑戦力など)を持つ人材を育てています。また、「広島大学・学生発スタートアップチャレンジ」では、助成金の支給やプロによるアドバイスなどにより起業を目指す学生もサポートしています。

竹内 変化の激しい現代社会では、自ら可能性を切り開いていく力が必要ですね。私は大学で学んできた科学の知識を生かして、サイエンス作家の道を開きました。いくつかの出版社を訪ねて原稿を持ち込み、編集者からアドバイスをもらいながら修正を繰り返すなど、最初の一冊を出版するまでには大変苦労しました。

越智 その甲斐あって、竹内さんは今や人気作家の地位を確立されました。40万部を超えるベス



2006年に発行され40万部を超えるベストセラーとなった竹内 薫『99.9%は仮説』/光文社新書

サイエンス作家 竹内 薫 たけうち かおる

東京都生まれ。筑波大学附属高等学校卒業後、東京大学に進学。教養学部および理学部を卒業し、マギル大学大学院博士課程を修了。サイエンス作家として150冊超の著作物を発刊、テレビやラジオ等でも活躍。

広島大学 学長 越智 光夫 おちみつお

愛媛県今治市出身。広島大学医学部卒業後、整形外科に入局。1995年鳥根医科大学教授。2002年広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授に就任。広島大学病院長を経て2015年から現職。2015年に紫綬褒章を受章。

自ら思考し、創造する。 AI時代を生き抜くクリエイティビティ。

竹内 薫氏 + 越智 光夫
サイエンス作家 + 広島大学 学長



トセラ『99.9%は仮説』を含め、物理や数学などに関する数々の本を執筆されています。実は、広島大学図書館でも竹内さんの著書を116冊所蔵しています。ところで最近話題になっているAIについて竹内さんの見解をお聞きしたいのですが、作家業をはじめとするクリエイティビティ（創造力）は、将来AIにとって代わられると考えますか。

竹内 私は、そうはならないと考えます。芸術家が心の奥底にある衝動を作品として表現するように、クリエイティビティは心の衝動から生まれると考えます。AIには心がないので、0から創造することは難しいでしょう。

日本の研究や教育に根本からの改革を



越智 日本の研究や教育についてもお聞かせください。研究力が低下していると聞いておられますが、どのような点が問題なのでしょうか。

竹内 大学の世界ランキングや論文の引用数などを見ていると、日本の研究はここ20年ほど厳しい状況に置かれています。その理由は、国による選択と集中がうまくいかなかったから。日本の研究を再興させるには、大学の運営費交付金の増加など資金の拡充が必須であると考えます。また、海外に比べて日本は、一般の方から大学への寄附がとても少ない。寄附の習慣がないことも原因かもしれませんが、もっと大学がアピールして寄附を集めなければ、海外大学と競っていくことは難しいと思います。

越智 資金を集め、研究力を高めることがこれからの大学運営には欠かせませんね。広島大学では、教員人事の全学一元管理化を進め、教育研究組織の枠を超えた人員配置を実現しま

した。それまで各部署管理だった教員組織を、新設した「学術院」での一括管理に変更したのです。これにより、本学が強みとする研究分野に優れた人材を投入でき、研究力強化につながっています。例を挙げると、「持続可能性に寄与するキラルノット超物質拠点」が文部科学省の世界トップレベル研究拠点(WPI)に採択され、10年で最大70億円の研究費を獲得できました。研究力を高め、日本の中で広島大学の存在感を高めていきたいと考えています。

竹内 広島大学は研究力向上に積極的に取り組まれているんですね。一方、日本の教育では、異常なまでの偏差値教育が問題として挙げられます。欧米諸国の教育事情を調べると、AI時代に対応した教育にシフトしていることがわかります。日本はその流れに取り残されないように、初等中等教育

を見直していく必要があるでしょう。具体的には、探究型授業を増やしていくべきだと考え

ます。広島大学では、一般入試のほかに「光り輝き入試」を導入されていますね。

越智 光り輝き入試は、生徒一人ひとりの長所を最大限評価するために設けた選抜方式です。学科試験の点数だけでなく、小論文や面接などを含めて選抜し、留学やスポーツ、課外活動などでの取り組みを評価します。

竹内 欧米ではそのような選抜試験が標準です。日本全体の教育を改革しなければ、未来はないでしょう。教育改革の一助として、私は「YESインターナショナルスクール」を作りました。小中学生を対象に、英語・日本語・プログラミングを教え、論理力・創造力・表現力・コミュニケーション力を養う、日本で唯一のトライリンガル・スクールです。不登校の子どもから、平均より著しく高い知的能力を持つというギフテッドの子どもまで幅広く受け入れ、AI時代を生き抜くクリエイティビティの素養を育てています。

越智 AI時代に対応した教育の重要性がよく分かりました。本日はありがとうございました。



Plus な 広大

竹内薫氏と越智学長の対談内容に関連して、広島大学をもっとよく知るためのTOPICSを紹介。あなたにも社会にもプラスになる大学の取り組みや魅力をお届けします。

PLUS [Entrepreneurship]

実践的な教育プログラムでイノベーションを起こす人材を育成

広島大学では、アントレプレナーシップ(起業家精神)を養うための教育活動を行っています。教養科目の「アントレプレナーシップ」をはじめ、2022年度から「大学教育入門」の中で全学生に対してアントレプレナーシップ教育を展開しています。起業を目指す学生だけでなく、

さまざまなことにチャレンジしたい学生に向けた授業やプログラムが充実しています。具体的には、東広島市と連携した「学生発スタートアップチャレンジ」や地域企業と連携したものの等、スタートアップへの挑戦を経済的に支援するプログラムを展開しています。実践的な取り組みを通じて、アントレプレナーシップを発揮するための思考やスキルを養い、幅広い分野で活躍できる人材を育成します。



東広島市・学生発スタートアップチャレンジ2023の様子

PLUS [AI]

今や必須となった情報技術のプロフェッショナルを輩出

生成系AIが急速に普及した現代社会。AI時代に即した教育は、大学にとって急務です。広島大学ではいち早く情報科学部を開設し、あらゆる分野で活躍できる「情報のプロ」を育成しています。大きな特徴は、文系科目での受験が可能なこと。入学後は

まずプログラミングをはじめとする基礎を習得し、1年次終了時には自分の興味に合わせて学びを選択。計算機科学、データ科学、そして知能科学という3つのプログラムに分かれて専門知識を獲得します。また、3年次から希望進路に合わせて自由に履修モデル(授業の取り方)が選べるのも特徴です。社会の課題を解決し、変革を起こすDX(デジタルトランスフォーメーション)人材としての力が磨かれます。



学部生全員が、3つのプログラミング言語を習得します

PLUS [Admissions]

受験者の経験や長所を重視した入試で多様な人に開かれる門戸

広島大学では、長所を生かして社会で光り輝く人材の入学を期待し、「広島大学光り輝き入試」を実施しています。この入試は「総合型選抜」と「学校推薦型選抜」に分かれており、小論文や面接のほか、プレゼンテーションを実施する学部・学科などもあります。留学・

スポーツ経験や、志望学部の学問領域に対する関心度・意欲などを丁寧に評価する点が特徴です。国際バカロレア履修者または取得者や、社会人・中高年、さらに卒業後に広島県でのDX推進に強い関心を持つ者を対象とした選抜などもあり、個性や意欲を尊重した入試で、多様な人々に学問の門戸を開きます。



多様な学生が学んでいます

特集 | 世界に挑む広大 #7

彼方に広がる 宇宙への挑戦

地球や生命はどのように誕生したのか？

神秘に満ちた宇宙は、古くから人類の探究心を刺激し続けてきました。

現代では、光学赤外線望遠鏡や惑星探査などの科学技術を駆使し、その謎の解明に挑戦しています。

知られざる宇宙の真実を明らかにすれば、地球環境の保全や資源開発など、人類の未来にも大きく貢献できるでしょう。

今回は、最先端の技術を用いて取り組む広島大学の宇宙研究について特集します。

小惑星リュウグウの試料分析から、宇宙における生命の起源を紐解く

顕微鏡を用いて、ナノスケールで太陽系の形成過程を探る

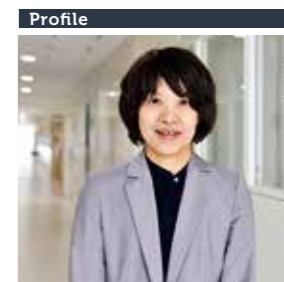
2020年、小惑星探査機「はやぶさ2」が小惑星リュウグウからサンプルを採取し地球に帰還しました。「はやぶさ2」プロジェクトの科学目的である、太陽系の形成過程や生命の起源を明らかにするべく、400人以上の研究者から構成される初期分析チームが顕微分析などを駆使したさまざまな手法でリュウグウ試料を分析しました。

その結果、リュウグウ試料に含まれる有機物は、イブナ型炭素質隕石(CI隕石)と化学組成が似ていることが分かりました。CI隕石は、太陽系の平均的な元素組成を記録する重要な試料で、地球にはわずしか落下していない希少な物質です。一方、リュウグウは宇宙の中で主要な炭素質小惑星に分類されることが分かっています。つまり、CI隕石は、太陽系全体を代表する小惑星に由来するものだったのです。地球に降る隕石を調べるだけでは、偏りがあることに気付かされました。これからは、地球上での風化の影響を受けていないリュウグウ試料が太陽系の標準試料として利用されるでしょう。

さらなる宇宙探査を進め人類の未来にも貢献

プロジェクトの中で、私は固体有機物(複雑な構造をした巨大分子)を分析するチームのリーダーを務めました。私たちは、リュウグウに含まれている有機物の大部分が黒色の石炭のような固体有機物であることを発見しました。その有機物の組成を詳しく調べたところ、リュウグウの母天体ではさまざまな条件で水と有機物の反応が起こっていたことや、母天体になる前の極低温環境で有機物が形成されていたことが分かりました。私はこの“黒色の固体有機物”が地球の生命の起源ではないかという仮説を立てています。これからもリュウグウの研究を進め、この仮説を検証していきます。

NASAの「オサイリス・レックス」計画では昨年9月に小惑星ベンヌからサンプルを持ち帰り、試料分析が進められています。今後、小惑星だけでなく、火星の衛星や彗星などへ対象が広がり、宇宙科学・探査はどんどん進むでしょう。宇宙のエネルギー資源の利用など、地球規模の課題解決につながる成果も得られるかもしれません。次世代を担う若い人々には、可能性が広がる宇宙にぜひ挑戦してほしいと思っています。



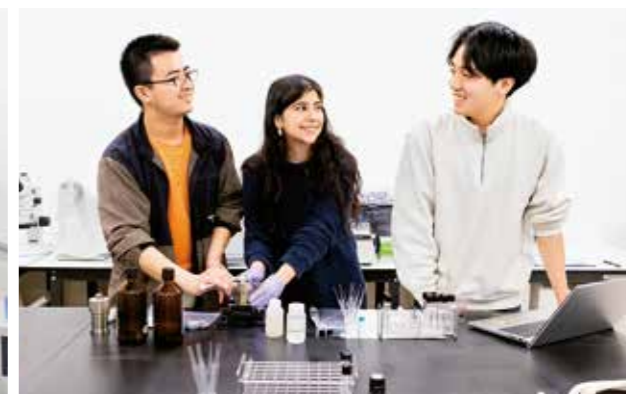
藪田 ひかる 教授
大学院先進理工系科学研究科
専門分野は、数物系科学、地球惑星科学、地球宇宙化学。



分子科学研究所(愛知県岡崎市)で分析装置開発の研究も行う



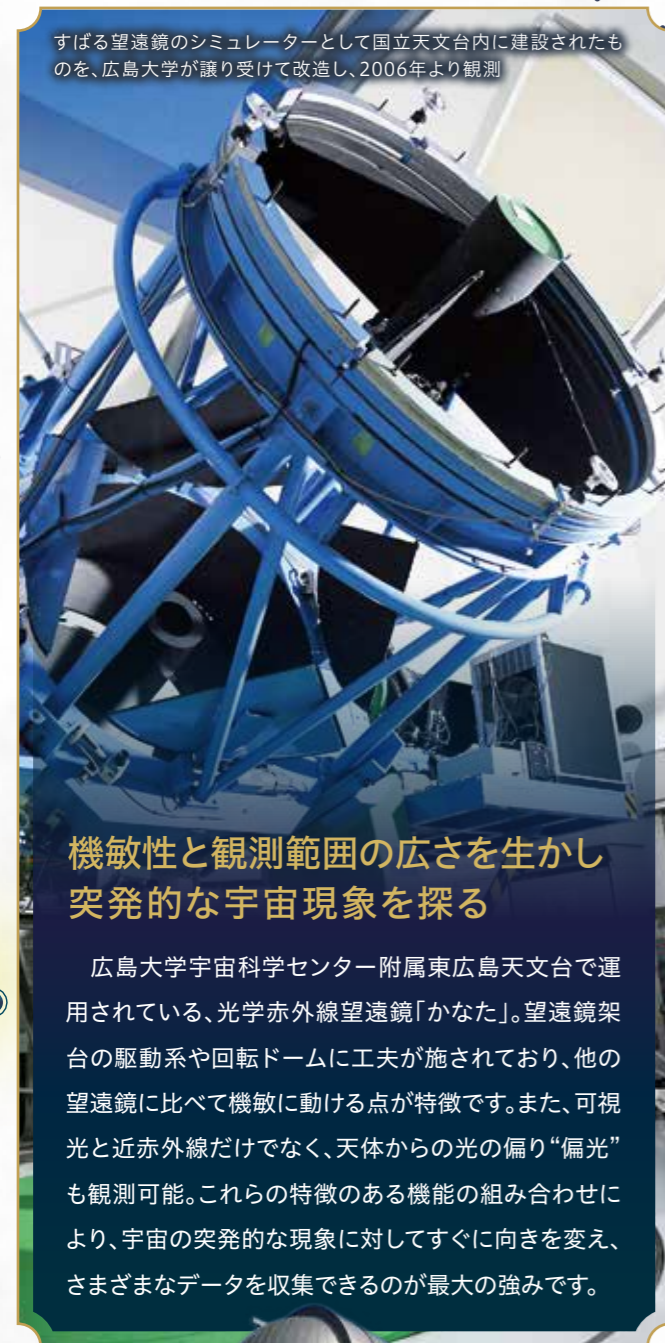
研究室の学生も交え、未知の地球外有機物の組成を調べる



室内実験で、小惑星の母天体の環境を再現

最先端技術で宇宙を探る！ 銀河系に秘められた謎を解き明かす

広島大学では、光学赤外線望遠鏡や天文衛星を活用した、最先端の天文学で宇宙を研究しています。両者を密に連携させて宇宙を観測することで、どのようなことが明らかになったのでしょうか。

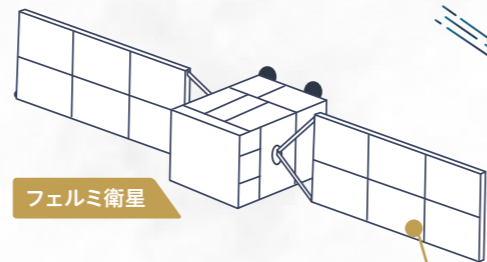


すばる望遠鏡のシミュレーターとして国立天文台内に建設されたものを、広島大学が譲り受けて改造し、2006年より観測

機敏性と観測範囲の広さを生かし 突発的な宇宙現象を探る

広島大学宇宙科学センター附属東広島天文台で運用されている、光学赤外線望遠鏡「かなた」。望遠鏡架台の駆動系や回転ドームに工夫が施されており、他の望遠鏡に比べて機敏に動ける点が特徴です。また、可視光と近赤外線だけでなく、天体からの光の偏り“偏光”も観測可能。これらの特徴のある機能の組み合わせにより、宇宙の突発的な現象に対してすぐに向きを変え、さまざまなデータを収集できるのが最大の強みです。

東広島天文台



フェルミ衛星

天文衛星を用いてガンマ線を観測し 高エネルギー現象を解明

フェルミ衛星は、宇宙からのガンマ線を観測する天文衛星です。2008年にNASAが打ち上げました。主要センサーの開発に広島大学の杉本節名誉教授が携わっていたことから、現在も広島大学が運用の一部を担っています。ガンマ線とは、ブラックホールなどの高エネルギー現象から放射される電磁波の一種。これまでの観測から、フェルミ衛星は6000以上もの天体を検出しています。光学望遠鏡より広い視野も生かし、高エネルギー現象の解明に貢献します。

TOPICS

かなた望遠鏡を利用できる 「特別観望会」で宇宙研究の楽しさを体感

年に2回実施している特別観望会では、一般の皆さまもかなた望遠鏡で天体をご覧いただけます。月のクレーターや土星の環を見た方が歓声を上げることも。今年は土星や金星、木星が見える11月に開催予定です。ぜひご参加ください。



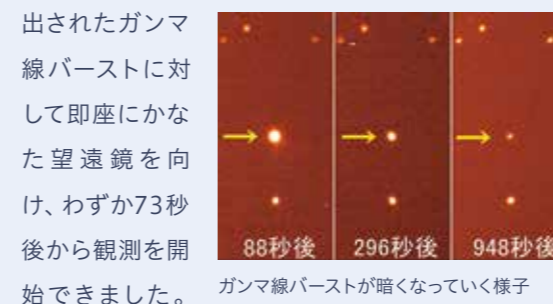
かなた望遠鏡を覗く子どもたち



詳細はこちら

いち早く爆発現象の観測を始め 新発見の一翼を担う

大質量星が崩壊してブラックホールを形成する際に、光速に近い速さの噴流（宇宙ジェット）を放出し、「ガンマ線バースト」が発生すると考えられています。ガンマ線バーストは時間が経つほど暗くなってしまうため、いかに早く観測を開始するかが重要です。宇宙科学センターでは、2018年7月20日に検



ガンマ線バーストが暗くなっていく様子

出されたガンマ線バーストに対して即座にかなた望遠鏡を向け、わずか73秒後から観測を開始できました。これほど早い段階から可視光の偏光を捉えたのは世界初です。これにより宇宙ジェットの構造を部分的に明らかにすることができました。偏光観測が行われたガンマ線バーストはまだ数が少なく未解明な点も多いため、他の望遠鏡や人工衛星などと連携しながら観測を続けていきます。



宇宙ジェットの想像図 (©金沢大学 制作:武重隆之介氏・高橋壮一氏)

Profile

川端 弘治 教授
宇宙科学センター
専門分野は数物系科学、天文学。

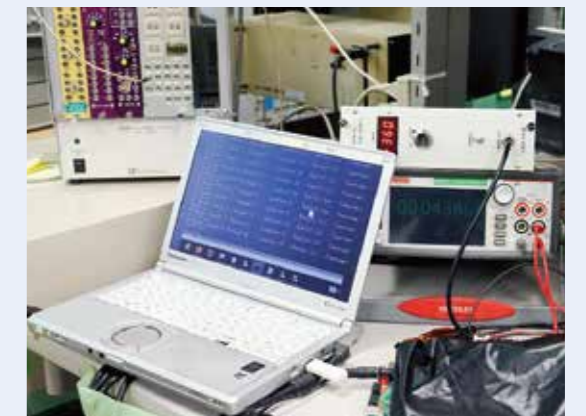


ガンマ線をはじめとする観測結果から 総合的に宇宙現象を読み解く

宇宙ジェットがブラックホールから放出される機構を研究しています。フェルミ衛星で観測したガンマ線のデータや他の電磁波の情報から総合的に調査し、ジェットの組成や周囲に与える影響など新たな知見が得られました。少しずつ宇宙の謎を明らかにしていければと考えています。現在、フェルミ衛星とは異なるガンマ線を観測するセンサーも開発



しています。このセンサーが実用化されれば、放射線医療や環境放射線計測などにも役立つでしょう。今後の宇宙研究では、重力波・ニュートリノなどの新しい観測手段とガンマ線などの従来の電磁波を組み合わせることで宇宙現象を総合的に読み解く「マルチメッセンジャー天文学」が主流になります。新しいセンサー開発により、マルチメッセンジャー天文学を推進していきます。



新しいガンマ線センサーを使用した実験

Profile

深澤 泰司 教授
先進理工系科学研究科
専門は、数物系科学、物理学、素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理学。



Hint 13

歯周病治療で危険な不整脈を予防する

宮内 俊介 助教

PROFILE | みやうちしゅんすけ
保健管理センターに所属。循環器内科の医師として臨床に立つ傍ら、不整脈を専門に研究を行う。昨年度広島大学病院に開設された「脳卒中・心臓病等総合支援センター」にも携わる。



【医】科と歯科の連携で、世界初の発見

私は循環器内科の医師として、また不整脈の専門家として基礎と臨床の両方の観点から研究しています。代表的な不整脈である心房細動は、脳梗塞や心不全になるリスクが5倍に跳ね上がる疾患。加齢や生活習慣病から、心臓(心房)の組織が線維のように固くなることで引き起こされます。私はこの心房の線維化と歯周病に相関があることを世界で初めて報告しました。それが可能になったのは、広島大学病院の医科歯科連携の強さがあったから。医科から歯科への患者紹介数は日本有数の多さを誇り、共同研究の素地も整っています。心房細動患者の歯周データを収集できたことが発見につながったのです。

しかし、相関関係がある理由や詳しいメカニズムはまだ解明できていません。最終的な目標は歯周病の治療が心房細動の予防に効果的であると明確に示し、患者に還元することですが、現状では基礎・臨床の両研究においてもっとデータを集める必要があります。

【研】究結果を心房細動治療に活かす体制を整備する

心房の線維化は一度起こってしまうと元に戻せないため、予防がとて重要で。歯周病はきちんと歯科に通うことで、予防や治療ができる病気。歯周病の治療が心房の線維化の予防につながると明らかになれば、歯周病治療の徹底によって心房細動のリスクを少しでも減らせると期待できます。そうなる必要なのは、心房細動診療に歯周病の治療を組み込む、さらなる医科・歯科間の連携。私は現在、広島大学病院の「脳卒中・心臓病等総合支援センター」のコアメンバーとして、循環器疾患を医科と歯科が連携して診療する体制の整備を目指しています。目標は広島大学病

院から広島県の市中病院へ、そして全国へと連携モデルを発信することです。

日常生活で大切なのは定期的な歯科検診、そして健康診断で心電図を測定すること。不整脈でも動悸などの自覚症状がない人もいますので、毎日検診も行うと良いでしょう。スマートウォッチは着けているだけで心電図を撮ってくれたり、脈拍を測ってくれたりする優れものです。このような情報を高齢者やその家族に対して発信するのも医師の役目の一つ。ポスターや市民講座を通じ、積極的に啓発していきたいと考えています。



心房細動のカテーテル治療の様子。臨床で生まれた問いは、研究で解明する

広大

もったいなれっじ

持続可能な未来のヒント

広島大学の研究室では、SDGsの達成に貢献するさまざまな知が日夜生まれています。読めば必ずためになる、こんなに魅力的な研究を知らないなんて、もったいない!



今回は、私たちの身体や海の生物に関する「新発見」を特集。発見を社会に還元するために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。



Hint 14

魚類の生態から環境のバランスを考える

河合 賢太郎 助教

環境DNAを分析する様子。検出感度が高いため、他のDNAが混ざらないよう細心の注意を払う

【産】卵生態を明らかにし、水産資源を守る

クロダイをはじめとする魚類の産卵生態について研究しています。クロダイは「チヌ」とも呼ばれる身近な魚ですが、産卵時期や産卵場所は詳しく分かっていませんでした。海中の卵を採取したり、発信機を付けた個体の行動を調べたりとさまざまな方法で研究した結果、4月中旬～7月上旬にかけて産卵することや、広島湾のカキ養殖場を産卵場としていることが分かりました。カキが小さく食べられやすい時期と、クロダイが産卵で体力を消費する時期が重なっているため、クロダイがカキの稚貝を食べてしま

い、食害が大きくなっていると考えられます。さらに詳しい産卵生態を調べることで、海の豊かさを維持し、クロダイとカキ養殖業者が共存できる方法を探していきます。

また、私は魚食を普及させるための社会活動も行っています。旬の時期のクロダイはとておいしいのですが、古くから言われている臭いイメージを払拭できず、なかなか利用が進みません。そこで、フードフェスティバルなどでクロダイの唐揚げ「ちぬ唐」を出店。多くの方からおいしいと好評をいただいています。より多くの人々にクロダイを食べてもらい、魅力を広めたいですね。

【南】極で起こる変化が、気候変動の指標

蓄積されたクロダイの産卵情報を活用して、新たな研究ツールも導入しています。例えば、クロダイをモデル生物とすることで、環境中の生物由来のDNAである「環境DNA」が、海水魚の産卵を検出できるだけの情報を持つことが分かりました。つまり、魚を殺さずとも海水をすくって解析するだけで、いつ、どこで魚が産卵しているか調べられるのです。これにより、近年国際的に求められる環境負荷の小さい研究法の確立に貢献できるでしょう。

昨年は南極での観測活動にも参加しました。南極の魚類の行動や生態などを幅広く調査し、得られたデータの分析を進めているところです。南極は気候変動の影響を受けやすいため、

その環境や生態系を知ることでこれからの世界各地の気候変動による影響を予測することができます。南極の魚類は氷点下の水温下で独特な進化を遂げた魚たちであり、海氷に依存した魚がいるなど気候変動の影響を強く受けます。魚類はペンギンやアザラシの重要な餌でもあるため、いち早く南極の魚類を取り巻く生態系を明らかにする必要があります。

私たちにできるのは、まず海の生き物や生態系について知識を深め、環境への負荷を小さくするために必要なアクションを起こすことです。小さな行動の変化が、海の生態系を守り、気候変動を抑えることにつながります。



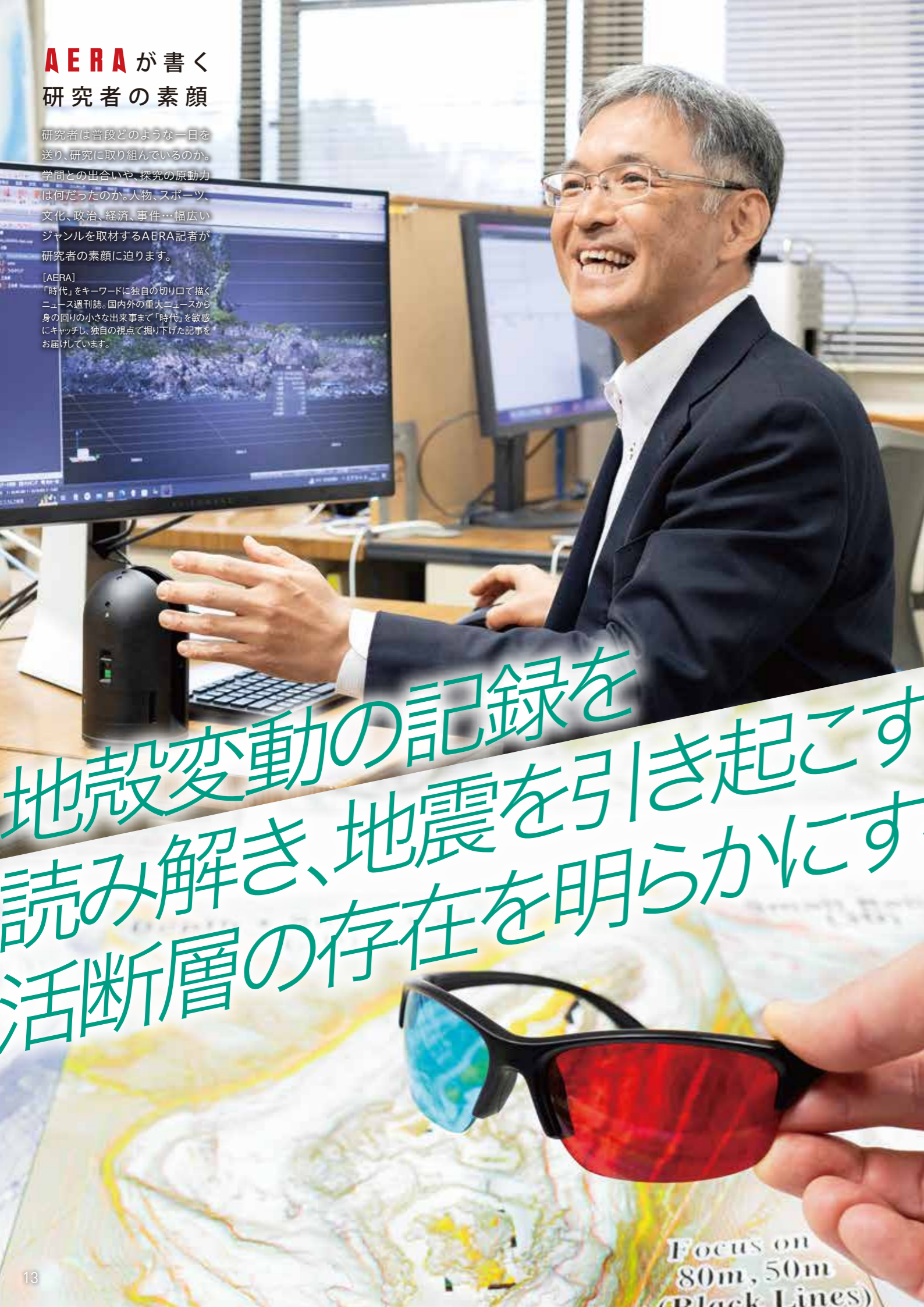
PROFILE | かわいけんたろう
大学院統合生命科学研究所に所属。クロダイをはじめとする沿岸性魚類から南極の魚類までを対象に、繁殖・行動・遺伝に関わる生態研究を行っている。

AERAが書く 研究者の素顔

研究者は普段どのような一日を送り、研究に取り組んでいるのか。学問との出会いや、探究の原動力は何だったのか。人物、スポーツ、文化、政治、経済、事件…幅広いジャンルを取材するAERA記者が研究者の素顔に迫ります。

【AERA】
「時代」をキーワードに独自の切り口で描くニュース週刊誌。国内外の重大ニュースから身の回りの小さな出来事まで「時代」を敏感にキャッチし、独自の視点で掘り下げた記事をお届けしています。

地殻変動の記録を
読み解き、地震を引き起こす
活断層の存在を明らかにする。



後藤 秀昭 教授

文学部 地理学教室
大学院 人間社会科学 研究科



ごとう・ひであき/1971年、岡山県生まれ。1995年、広島大学文学部史学科卒業。1997年、広島大学大学院文学研究科博士課程前期修了。2000年、広島大学大学院文学研究科博士課程後期修了。福島大学人間発達文化学類助教授などを経て、2007年、広島大学大学院文学研究科准教授。2024年4月から現職。

能登半島地震による 海岸線の変化を研究する

1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」では最大震度7が観測された。後藤秀昭教授ら日本地理学会の令和6年能登半島地震変動地形調査グループはいち早く、国土地理院の空撮写真や人工衛星の画像データを使って能登半島の海岸線の変化を調査した。これまでに陸地の隆起、つまり海岸線の沖への前進は最大240mに達し、約4.4km²が陸地化したことなどが分かっている。



「1995年の阪神・淡路大震災後、陸地の活断層研究は急速に進みました。これに対し、海底活断層の研究は手つかずと目されていた状態です」

地震の原因となった活断層はこれまで短いものと認識されてきた。しかし、後藤教授らによる2012年の変動地形学的な研究では、長い活断層が存在していることが分かっていたという。

「活断層が長いほど、動いたときの地震被害は大きくなります。私たちの研究をもとに自治体の防災対策が練られていけば、復興や支援は大きく変わっていた可能性があると思っています」

地殻変動によって形成された地表面の起伏や地面のずれに注目し、地形の成り立ちから地球内部の運動を解明するのが変動地形学だ。地下にあって目に見えない活断層の存在を明らかにすることができる。

「数百年から数万年という長いタイムで、地震の『記録』を読み解くのが変動地形学です」

5年をかけて南海トラフの 海底活断層図を作成

大学2年のとき、恩師の中田高氏（現・広島大学名誉教授）に誘われ、島根県益田市に調査に出かけた。歌人・柿本人麻呂を祀った神社には1026年に大津波があったという口伝がある。掘削調査によってその年代に大津波があった痕跡が発見され、ニュースにもなった。

「現場調査で新しい発見があったことに刺激を受け、変動地形学の道に進みました」

今では航空機や船舶からの測量によって、詳細な地形データを得ることができるよう

になった。後藤教授はこうしたデータを3D赤青メガネで三次元の地形として読み取り、地形のずれ、すなわち活断層の位置や形状を明らかにする方法を考案した。2022年にはこの方法を用いて、過去200年間で地震空白域となっている秋田県の男鹿半島沖に新たな海底活断層があることを明らかにしている。

例えば、関東から九州の太平洋岸の広い地域に10mを超える大津波の襲来が想定されている南海トラフ地震。国の地震調査研究の一環として、後藤教授は2024年度からの5年間で、対策の基礎情報となる南海トラフの海底活断層図を作成する。南海トラフを含めた日本列島周辺海域の活断層図の作成が最終目標だという。

フィールドワークでは 「さぼらない」を信条に

フィールドワークを重視する後藤教授は1年のうち約60日は現場に出かける。2月には8日をかけて学生と能登半島を調査し

た。その際に重視していたことが「さぼらない」ことだ。海岸線では岩の間を跳び越えたりしなければならぬこともある。体力的にもきつい。でも、その労を惜しんで切り上げてしまえば調査を尽くしたといえず、発見もないのだという。

赤青メガネをかけて長時間パソコンをにらんでいると、平衡感覚が崩れるときもある。体調管理の意味も込めて、週1回ヨガに通う。休日にはジョギングをしたり、ギターを弾いたり、猫と遊んだり。「ギターで大きな音を出すと、もやもやしていたものがずっと消えます」。オンとオフの上手な切り替えが、地道な研究を支えているのだろう。



1 白く見えるものはビリヒバという海藻。地震によって海底が隆起したことが分かる

2 一緒に遊ぶ飼い猫。心があるように感じさせる優しい子。「おはよう」と言える

地球規模のトピックから地域密着のエピソードまで、
 広島大学の取り組みを GLOBAL (国際) と LOCAL (地域) の両面から
 紹介するコーナーです。

「トライリンガル養成特定プログラム」の 受講者がドイツ語プレゼン大会で入賞

語学力を磨き 多分野で輝く人材を育成

広島大学では、母語・英語に加えて3つ目の言語を習得する「トライリンガル養成特定プログラム」を開講しています。語学学習を通じて視野を広げ、多分野で活躍する学生の育成を目指して2017年から始まりました。対象となるのは、中国語やドイツ語など5カ国語。1年次には全学生が外国語を1つ選択して履修しますが、2年次以降も継続して上級レベルの語学力を身に付けたい学生が集まります。複雑な文章を読む授業や、自身の専門分野に

ついて発表する授業も設けられています。コロナ禍で国際交流の機会が減少していましたが、今後より多くの学生がこのプログラムを活用して外国語を修得し、留学等に挑戦することが期待されます。

自らの思いを自然に表現できる 語学力を習得

本プログラムの履修者は、学外でも積極的に学習の成果を発揮しています。プログラムを約2年半受講した法学部4年(取材当時)の吉井麻菜美さんは、2023年12月に京都で開催された「第2回全日本学生ドイツ語プレゼン大会」で6位に入賞しました。大会では、路線バス搭載の車いす用スロープが使いづらいのではないかと問題点および改善策を発表。テーマはドイツ語の先生から「日々の疑問を話題にすると良い」とアドバイスされて決めたそうです。前回大会では原稿を丸暗記したものの、緊張でうまく話せなかったという吉



写真提供: 京都外国語大学

井さん。今回は伝えたい内容や特徴的な語句のみを頭に入れて臨み、自然なプレゼンに成功しました。「受講を通じて、継続的に成長を実感できました。ドイツ語で自分の意見を表現する機会がたくさん設けられており、場面に合った適切な表現を使用できるようになりました」と成長を喜びました。

吉井さんの発表テーマにアドバイスを送った、プログラム責任者の吉満先生。「多くの学生にプログラムを活用し、大会にも参加してほしいです。教員一同協力は惜しみません」と熱意を見せました。



外国語教育研究センター副センター長 吉満 たか子 准教授

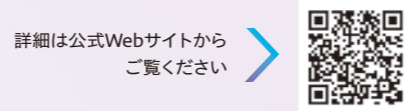
第13回日中学長会議が広島で開催

国際的な人材教育に向け 互いに理解を深める

2023年11月28・29日、第13回日中学長会議が開催されました。本会議は2年ごとに日本と中国で交互に行われており、今回は広島大学が開催校に。両国37大学の学長・副学長や中国大使館・文部科学省の関係者約160人が参加し、「多様性と融合～これからの時代に求められる人材と高等教育」をテーマに両国間の交流の促

進や、大学教育・研究の新しいあり方について議論しました。29日の本会議では越智学長が基調講演を行ったほか、「ポストコロナの新しい大学教育・ICTの活用」と「気候変動・地球規模課題への挑戦」をテーマにセッションも開催。各大学の取り組み紹介や活発な意見交換が行われました。現在、広島大学の留学生は半数以上が中国から。今後も両国の学生交流を推進し、グローバルな人材育成に貢献します。

詳細は公式Webサイトから
 ご覧ください



大学の学びを分かりやすく地域に発信 「広大きてみんセミナー」

「広大きてみんセミナー」は、教育・研究成果を地域に発信し、広島大学を広く知ってもらうための公開セミナーです。今までに2回、広島JPビルディング内の「きてみんさいらボ」で開催されています。

第1回のテーマは オオサンショウウオ

第1回は2022年12月に開催されました。テーマは「守れ! 生きた国宝オオサンショウウオ」。オオサンショウウオは日本固有の貴重な生物ですが、外来種との交雑によって個体数が減少しており、天然記念物に指定されています。第1回セミナーは、オオサンショウウオの現状と課題について広く知ってもらうことを目的に開催されました。小中学生から高齢者まで幅広い年代から参加があり、オオサンショウウオへの関心の高さがうかがえました。

在来種



セミナーでは、両生類研究センターの三浦郁夫准教授(当時)と総合博物館の清水則雄准教授がオオサンショウウオの起源と進化、外来種との交雑問題などについて講演。三浦准教授は、遺伝子の解析結果に基づき、かつてオオサンショウウオが集団の大部分を失い、遺伝的多様性がなくなってしまった可能性を指摘。また、オオサンショウウオのDNAの塩基配列を基にした音楽も披露し、参加者を楽しませました。清水准教授は、広島市の八幡川で捕獲したオオサンショウウオの約8割が外来種との交雑種だった調査結果を発表。人が外来種を運んできている可能性を指摘しました。

参加者からは、「オオサンショウウオを通じて、分類や進化の面白さを知ること



LOCAL

ができた」「交雑種を増やさないためには、“知ること”が大事だと思う」などの声が上がりました。

宇宙をテーマにした 第2回セミナー

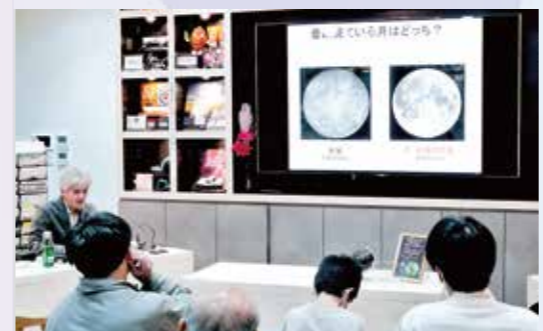
第2回は「この冬空のむこうの宇宙」というテーマで、2023年12月に開催。澄んだ冬空の先に広がる宇宙の神秘を探る旅へ、参加者を誘いました。

講演者は、広島大学宇宙科学センター長の川端弘治教授。冬の夜空の星々や星

座、宇宙の神秘について分かりやすく説明しました。講演の合間には、参加者自らが宇宙の神秘を体験できるワークショップを実施。参加者は、仮想宇宙空間シミュレーションソフトと「3D赤青メガネ」を用いて宇宙空間を体感したり、分光器を使って太陽のスペクトルを観察したりしました。「宇宙の話は少し難し

ることがよく分かった」などの声が聞かれ、参加者は宇宙への興味をさらに深めた様子でした。

広島大学は、「広大きてみんセミナー」を通じて、研究内容やその成果だけでなく、国や世界、地域社会にどのように貢献しているかについても発信していきます。今後もさまざまな分野のセミナーを実施する予定です。



開設から1年を迎えた「きてみんさいらボ」にて

杉本 若菜 さん
(すぎもとわかな)
大学院人間社会科学部 博士課程前期1年
留学先: スウェーデン
留学期間: 11か月(2022年8月~2023年6月)
利用した留学プログラム: HUSAプログラム

留学体験記

先進的な教育に触れて得た
広い視野をもって
未来の教育に貢献したい

北欧の先進的な教育に触れること、語学力を磨くことを目的にスウェーデンへの留学を決めました。留学先での授業は日本にはないカラフルな教具や自然物を教材として使い、五感で体験することを重視した新鮮なものばかり。そうした活動が教科横断的な学びにつながると実感できたのは、今後の教育研究に役立つと思います。また、温かく受け止めてくれる仲間のおかげで、自身の弱みや英語を話すことへの不安など素直な感情を表に出す大切さに気づき、失敗や他人の目を気にしすぎず物事を前向きに捉えるように成長できました。伝わる英語を話すことに苦労しましたが、自分のコミュニケーションの方法について見つめ直す機会になりました。授業内外でスウェーデン独自の文化であるフィーカ(家族や仲間との交流を深める時間)も体験し、ワークライフバランスの重要性や多様な生活様式に気付くことができました。

この春から、大学院で学んでいます。未来に貢献できる教育を追究すると共に、意欲的に海外に足を運びたいと考えています。

Contributing to the future of education through my experience with advanced education

I chose to study in Sweden to experience the advanced education system of the Nordic countries and improve my language skills. Swedish classes incorporate colorful teaching materials and natural elements not commonly found in Japan, emphasizing experiential learning through all five senses. I believe that realizing how these activities contribute to interdisciplinary learning will prove invaluable for my future research in education. Additionally, thanks to the friendly environment my peers created, I understood how important it is to express my feelings, including my insecurities and anxiety about speaking English, without fearing judgement or failure. This has allowed me to adopt a more positive outlook on things. Although I struggled to speak English fluently, it was an opportunity for me to reassess my communication methods. I also experienced the unique Swedish tradition of fika (a time to deepen interactions with family and friends) both inside and outside the classroom, which helped me understand the importance of work-life balance and the diversity of lifestyles. Starting this spring, I am pursuing my studies in graduate school with the aim of advancing education that can contribute to the future and eagerly seeking opportunities to travel abroad.



クマの被害を防ぎ
共存できる未来のために

2023年度は、全国各地でクマによる被害が相次ぎ、大きな問題となりました。広島県でもツキノワグマの目撃数が増加しています。こうした状況を受け2月18日、広島市安佐動物公園にて、「ツキノワグマに遭わないために『クマ』を知る」と題したシンポジウムが開催されました。当日は大学院統合生命科学研究科の教授や大学院生が

研究を紹介。クマの行動実態を学び、遭遇や接近を避けるための方策について、約50人の参加者と意見を交わしました。

大学院統合生命科学研究科の西堀正英教授は、広島市安佐動物公園およびつくば遺伝子研究所の協力のもとに進めている取り組みを紹介。空気中に残るツキノワグマの環境DNA(eDNAir)を採取し、生息状況を把握して出没を予測する、革新的な研究です。研究グループは、低コストで安定的にeDNAirを回収できる装置を開発。広島市安佐動物公園や周辺の森林・里山を調査し、ツキノワグマの行動テリトリーや生態を明らかにしました。また、空気中に残る時間がさらに短い環境RNAの検出システムも作製し、ツキノワグマがいた場所や時間を絞り込めるようになりました。

参加者に向け、「人とクマが安心して共存できる社会のためには、クマの行動を知る

環境DNAを利用した
クマ出没予測システム
安佐動物公園での
シンポジウムで紹介

事が第一歩」と話した西堀教授。このシステムを活用し、ツキノワグマ出没予測マップの作成を目指します。



ドキュメンタリー大賞特別賞受賞
「清流のヌシの叫び～繋ぐ命と扱う命～」

オオサンショウウオを
地域の自然環境や命を考える
きっかけに

総合博物館の清水則雄准教授が出演した、テレビ新広島制作のドキュメンタリー番組「清流のヌシの叫び～繋ぐ命と扱う命～」が、このたび第32回FNSドキュメンタリー大賞特別賞を受賞しました。

清水准教授は長年、「清流のヌシ」と呼ばれるオオサンショウウオの生態調査に取り組んでいます。学生や

地域住民、自治体と連携し、河川での野外調査を実施。豪雨による流出や、外来種と交配して生まれる交雑種の増加など、オオサンショウウオが多くの課題に直面していることを明らかにしてきました。

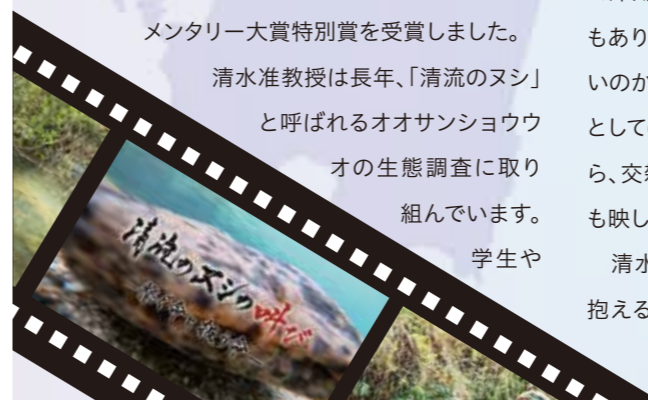
特に交雑種の増加問題は生態系にとって深刻で、日本固有種の絶滅を招く恐れもあります。「交雑種と共存する方法はないのか?」番組では、清水准教授が研究者としての使命感と命の選択に葛藤しながら、交雑種の駆除という決断を下す様子も映し出されています。

清水准教授は、オオサンショウウオが抱える課題を多くの人に知ってもらいた



生態調査を行う清水准教授と学生たち

めに、講演会や副読本の出版、LINEスタンプの制作なども進めています。「地球の宝であるオオサンショウウオを守るには、行政や地域住民一人一人の意識が重要です。この番組を通してオオサンショウウオの現状に関心を持ち、地域の自然環境や『命とは何なのか?』について考える機会となれば幸いです」と話します。受賞作品は、3月22日からAmazon Prime Videoで配信されています。





広島大学を日々支えるオフィスやセンター。その業務の内容に迫ります。

Town&Gown Office!

Q1 Town & Gown Officeの活動内容を教えてください。

A. Town (=まち)とGown (=大学)が協力し、民間企業を巻き込みながら持続的な地域の発展と大学の進化を共に目指す「Town & Gown構想」。その連携拠点として設置されたのがこの組織です。本学の

キャンパスを実証実験の場として活用し、自治体、大学、民間企業それぞれの知見や技術を融合させることで、Society 5.0やカーボンニュートラルなど、持続可能な未来社会の実現に取り組んでいます。

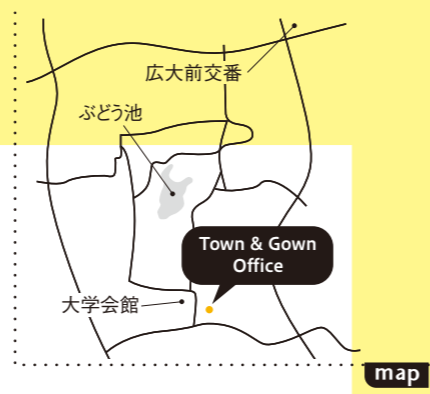


市と大学によるイノベーションの中核として、新しいまちづくりの実現を担う。

Q5 今後の展望を教えてください。

A. これまで本学のキャンパスではさまざまな実証実験を行ってきました。特に東広島キャンパスで実施した電気自動車のカーシェアサービスは約1カ月間で100人以上

の利用があり、予想を超えて実証が進展しています。今後はこれらの実験で得られたデータや利用者の声をもとに、東広島市への実装を進めたいと考えています。



Q2 組織の特長を教えてください。

A. 東広島市・広島大学・民間企業が日常的に連携しているところです。各組織の職員が同じオフィスで勤務しているため、アイデアをすぐに市と大学・民間企業の間で共有・検討し、実践できます。

Q3 業務のやりがいは何ですか？

A. 地域の課題解決にアプローチできることです。異なる組織風土を持つメンバーが一つの目標に向かうことは一筋縄ではいきませんが、互いに力を出し合って地域に貢献できた瞬間には大きな達成感を得られます。

Q4 もっと社会に知ってほしい取り組みはありますか？

A. 「人々に新たな縁をもたらす『ドア』になる」ことを目的に開発した「TGOアプリ」です。まちや大学のイベント情報、学内外で使えるクーポンの配信など、東広島市での暮らしを豊かにするサービスを発信中です！

また、Town & Gown構想の全国展開にも力を入れます。活動を通して培った知見を全国の地方自治体・地方大学に共有し、地域から日本を躍動させていきます。

HIRO-DAI HEROES

キャンパスで、地域で、チャレンジする広島生を紹介

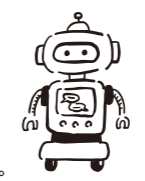
HERO 29 山本 匠真 さん
(やまもと しょうま)
工学部第二类 4年

自己分析と日々の練習で、日本インカレ3位入賞！
2023年9月に行われた第92回日本学生陸上競技対校選手権の男子100mで、3位に入賞しました。予想以上の好成績に自分でも驚いています。陸上競技部での練習では、普段から自分の状態を把握し、どんな練習で何を鍛えるのかを自ら考え実行しています。本大会前に数カ月間記録が伸びない時期があったのですが、ウエイトトレーニングが不足しているという原因を突き止め、出場大会を絞って練習メニューを見直し、一から鍛え直しました。その結果、最高のコンディションで本番を迎えることができました。今後の目標は、日本選手権の男子100mで表彰台に登ることと国際大会で日本代表に選ばれること。日本のトップクラスを体感した全国大会の経験を糧に、自己分析と自主練習を深化させ、さらに高みを目指し精進していきます。



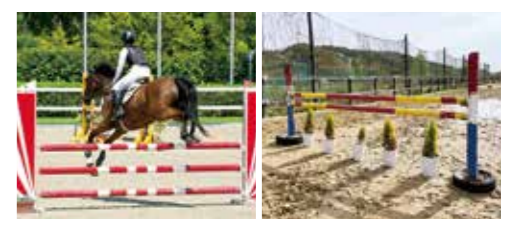
試合中は名指しの応援に励まされています 練習中の様子

お気に入り講義：
ロボット工学
普段扱うことが少ない力学的な視点でロボットに関する知識を学べるので、とても新鮮な気持ちで授業を受けられます。



HERO 30 竹田 仁実 さん
(たけだ ひとみ)
総合科学部国際共創学科 4年

人と馬・人と人の絆を強みに、国立大学No.1へ
広島大学馬術部は、中国四国地区学生馬術大会で春季・夏季連覇を果たしました。その強さには2つの秘訣があります。一つは、パートナーである馬と心を通わせること。普段のお世話を通してしっかりと信頼関係を築いています。もう一つの強さの秘訣は、部員同士の絆です。先輩が得たノウハウを後輩に引き継ぐことで、短期間でスキルアップができます。私は主将として率先してコミュニケーションを取り、仲間と何でも話せるような居心地の良い環境づくりに努めています。必要な情報が円滑に共有されれば、事故なく効率良く練習ができ、それが部の強さにつながるのです。また、馬に会うために卒業生が訪れることもあり、馬が人の絆も紡いでくれていると感じます。今後の目標は連覇記録を伸ばし、国立大学でNo.1を獲得すること。人・馬の強い絆を糧にして、勝負に挑みます。



馬と意思疎通を図りながら障害物を跳び越える 障害馬術競技用の器具も部員が作製

お気に入り講義：
観光地理学
観光の観点から人文地理学を学ぶ講義。尾道での実地調査では、他学部の学生と交流できたことも楽しかったです。



卒業生インタビュー / 私も

大です

広島大学を卒業・修了後、各業界で活躍されている卒業生の方々に、現在のお仕事と大学時代を語っていただきました。



大学院文学研究科* 出身

鄭西吟さん

平山郁夫美術館
学芸員

*現 大学院人間社会科学研究科

てい・せいぎん / 中華人民共和国四川省出身。同国の大学を卒業後、広島大学大学院文学研究科にて倫理学を学ぶ。2019年、在学中に平山郁夫美術館でのインターンシップに参加。2022年修了後、同美術館にて学芸員として勤務。



医学部医学科 出身

丹藤昌治さん

岐阜県健康福祉部
部長

たんとう・まさはる / 広島県出身。2004年に広島大学医学部を卒業後、2年間の臨床研修を経て医系技官として厚生労働省に入省。厚生科学課・国立国際医療研究センターなど、保健や医療に関するさまざまなポストを経験し、2023年より現職。

不思議な縁に導かれて
美術館初の外国籍学芸員に

広島県出身の画家・平山郁夫の作品を研究・紹介する学芸員として働いています。私が平山先生を知ったのは、当館と包括協定を結んでいた広島大学を通じて、インターンシップに参加したとき。日中の文化財保護や、文化交流における功績を知って感銘を受けました。そしてかつて訪れた「敦煌莫高窟」を思い出したのです。約1000年かけて作られた、美しい石窟寺院。それを保護したのが平山先生だったと気付いて不思議な縁を感じ、先生の思いを広めたいと思うように。大学院で研究をする傍ら学芸員の資格を取得し、当館初の外国籍学芸員として採用されました。

大学院では実践的な哲学を学びたいと応用倫理学を専攻。哲学を応用し、芸術とは、理性と感性の融合による産物であると主張しました。作品の背景などを語る「理性」と、作品に共感する「感性」。学芸員として鑑賞する際、大学院での研究と仕事のつながりを感じます。

平和を願い
芸術の素晴らしさを広めたい

どのような切り口で先生の作品を展示するか決めるのは、学芸員の重要な仕事です。より多くの人々が興味を持ってくれるテーマを考え、数年かけて企画展の準備をします。作品研究や来館者への解説に加え、広島大学でワークショップを開くことなども。業務内容は多岐にわたります。あるとき中国からの来館者に中国語

で案内を行ったところ、先生の作品や活動に感動して友達と共に再訪していただくことができました。自分の案内で先生の思いが伝わっていったことが心からうれしく、印象に残っています。悲惨な争いが絶えない今日だからこそ、国境を越えて人々をつなぐ芸術の素晴らしさ、そしてそれを守りたいという先生の思いをもっと広めていきたいと思っています。

心に響いた人生の名言

日本に来たばかりのころに研究室の先生に言われた、「勉強だけでなく生活も楽しんで」という言葉。休暇の際は芸術の島・香川県直島に滞在し、島民の自由な気風や芸術作品に刺激を受けています。

広島大学の学びが教えてくれた
医系技官という道

私が医学を学ぼうと決意したきっかけは、当時躁うつ病に苦しめられていた友人が、治療を経て明るく笑えるようになった姿を見たことでした。人の気持ちや性格にまでアプローチできる医療の力を目の当たりにし、医学部に進学しました。

在学中の学びで印象に残っているのが、疾病の予防や健康の保持増進を目指す公衆衛生学という学問です。中でも、医系技官としても活躍する外部講師の言葉が私の将来を決定付けました。医系技官とは、医療の専門家として行政に携わる国家公務員のこと。社会と医療をつなぐ立場から発せられた「医師の仕事は病院や診療所にとどまらない。社会全体の健

康を守るのも医師免許を持つ者の役目だ」というメッセージに感銘を受け、私も医系技官になることを決めたのです。

いついかなる時も
国民の健康を守るために

厚生労働省に入省後は本省でのさまざまな職務を経て、2023年から岐阜県の健康福祉部の部長を務めています。保健医療計画の策定から健康増進のための事業の推進、さらには県議会での答弁や各医療組織との意見調整など、岐阜県の健康と医療に関する全ての分野に関わっています。社会に存在するあらゆる健康課題に対処する必要があるため、求められる知識やノウハウは多種多様。さまざまな団体と協力し、時には各医療分野における有識者の方々にもお力添えを

いただきながら、県民の皆さんの健康を支えるために日々奮闘しています。

現在、日本の医療行政では、大規模な自然災害や犯罪の発生など有事の際に人々の健康を守る「健康危機管理」の重要性が高まっています。今後も地域における医療体制の改善に努め、どのような状況でも健康を守れるような医療のあり方を実現したいと考えています。

広大のここがええね!

学生代表として学生と教員の橋渡しをしたり、バドミントン部設立のために奔走したり……。自らの学生時代を振り返ると、広島大学は多くの人と関わりを持てる魅力的な学び舎だったと感じています。

Rule 1 縄跳びやランニングなどで体を動かす

やらなければならないことを始める前にはシンプルな運動をしています。全身に血を巡らせて意識をシャキッとさせつつ、「〇〇回跳ぶ」「〇〇km走る」とあらかじめ定めた目標を達成して自己肯定感を上げることで、やる気を引き出しています。

総合科学部 総合科学科 4年
ふくだ あつひろ
福田 敦寛さん



学生広報ディレクター
取材メモ
総合科学部 総合科学科 4年
草野 櫻子(くさの さくらこ)さん

気持ちの切り替えを大切にしている福田さん。ポーッと過ごしてしまった時間も「頭の整理に必要だった」と前向きに捉えているそうです。



Rule 2 ミュージカル俳優になりきって、思いっきり歌う

気分が落ち込んでしまったときにはミュージカル映画の曲を歌っています。物語の主人公と同じ気持ちになることで、どんなに辛いことがあっても乗り越える心の強さをもたらしています。

Rule 3 ご褒美に美味しいラーメンを食べる

課題を提出できたときやテストが終わったときなど、何かをやり遂げられたら、自分へのご褒美として美味しいラーメンを食べています。最近は汁なし担々麺はまっています。

Rule 4 レポートはとにかく書いてみる

レポートを作成するときは、思いついたアイデアを書き出してみるなど、すぐに手を動かすように気を付けています。頭の中で考えているだけでは何も進まないで、とにかく形にすることから始めています。



大学院人間社会科学部
博士課程前期 1年
まきの とうこ
牧野 桃子さん

Rule 1 ギターを弾いてリフレッシュする

気分を変えたいときは、キャンパスの広場でギターを弾いています。総合科学部の研究棟と学生会館の間にある階段を下りた、川沿いのベンチがお気に入りのスポット。日当たりが良くてすがすがしい気持ちになれます。

Rule 2 お気に入りの音楽でやる気スイッチを入れる

力強いビートの曲を聞いて自分を鼓舞しています。お気に入りはAAAの『BLOOD on FIRE』とSKY-HIの『New Verse』。どちらも「自分が世界を変えてやる!」というメッセージがこもった熱い曲です。

Rule 3 時間があるときは旅行へ行く

予定に縛られず自由気ままに行動して、目の前の知らない文化や景色から刺激をもらっています。宿泊先にはゲストハウスを利用して、一期一会の出会いを楽しんでいます。

Rule 4 研究では身近な事柄とのつながりを探す

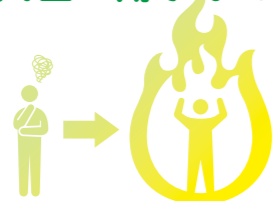
発話発声に興味があり、研究対象の音声はとても短いものが多いですが、コミュニケーションに関わる身近な問題との接点を考えることで、研究のモチベーションを高めています。

学生広報ディレクター
取材メモ
総合科学部 総合科学科 4年
草野 櫻子(くさの さくらこ)さん

お気に入りの曲は中高時代から聴き続けているもの。ここぞというときに勇気をくれる、自分にとっての勝負ソングだと教えてくれました。



広大生に聞きました



やる気を引き出す

4

Rules

自らを奮い立たせ、目の前の課題を乗り越えるために、学生たちが実践している4つの自分ルールを教えてくださいました。



Rule 1 ライブ映像を観てテンションを上げる

考えが煮詰まったら、別の勉強に切り替えたり昼寝をしたりと、全く別のことをやるようにしています。最近は好きなアーティストのライブ映像を観て、自分のテンションを上げてから作業をしています。



大学院統合生命科学部
博士課程前期 修了
ひらた あさひ
平田 朝陽さん

Rule 2 タスクを「見える化」する

日々やらなければいけないものをリストアップして、常に目に入る位置に貼っています。終わったタスクにチェックを入れて、進捗が見えるようにするとやる気も出ます。

Rule 3 気になった言葉はすぐにメモして調べる

授業中に気になった言葉はすぐに書き留めて、後で調べるようにしています。授業の後の課題をスムーズに進められたり、他の授業でも活用できたり、とても役立っています。

Rule 4 大前提として、授業は集中して聞く

当たり前のことですが、高校でも大学でも勉強の基本は授業。板書だけでなく先生の話もしっかりノートに書くなど、授業に真剣に向き合うことが勉強をスムーズに進めるコツだと思っています。

学生広報ディレクター取材メモ
総合科学部 総合科学科 3年
石貝 美羽(いしがい みう)さん



メモする習慣があったのは「大学からは自分で学ぶ姿勢が必要だ」と気付いたからだそう。取材を通じて、疑問を放置しないことは大学での学びにおいてとても重要なのだと改めて感じました。

Rule 1 事前にきちんと計画を立てる

必ず机の上にカレンダーを置いています。カレンダーには全ての予定を書きこんで、自分が今何に集中すべきかを常に意識できるようにしています。また、家の壁にふせんを貼って気合の入る言葉を書き、やる気を出しています。

Rule 2 たまにはおいしいものを食べて休憩する

コンビニスイーツやファストフードなど、自分では作れない食べ物を楽しんで休憩をはさんでいます。母国モンゴルの「スーテーツァイ(塩入りのミルクティー)」で一息入れることも多いです。

Rule 3 疲れたときは映画に没入する

忙しいときや疲れたときは自分の趣味である映画を観るようにしています。映画の世界に入り込むことで一時的に現実から離れ、自分の気持ちや感情をリセットすることができます。

Rule 4 レポートでは細分化を大切に

レポートに取り組むときは、全体の流れを決めてから着手しています。書きたいテーマを段落に分けることで、着手しやすそうな段落から少しずつ、着実に進めています。



法学部 2年
アリウナ マラル
ARIUNAA MARALさん

学生広報ディレクター
取材メモ

法学部 2年
岡島 由奈(おかじま ゆな)さん

映画好きの家族に影響を受け、マラルさんも一緒に鑑賞するようになったそう。『ハリー・ポッター』シリーズが大好きで、試験期間中はよく観ていると教えてくれました。

Rule 1 論文を読むのに疲れたらラブストーリーを読む

研究では論文を読むことが多いのですが、難解な文章に疲れたらいつも恋愛小説を読むようにしています。論文にはない多彩で自由な文章表現に触れて感性を養いつつ、オーバーヒートした思考を落ち着かせています。

Rule 2 自分への飴と鞭をしっかりと使い分ける

後になって困らないように、必ず着手するタイミングを決めて自分を律しています。提出し終わったらコーヒーとチョコレートでリラックス。メリハリを大事にしています。

Rule 3 作業する時は時間を決めて集中する

「この作業は30分で終わらせるぞ」などで、自分で制限時間を設定しています。タスクにかける時間を設定することで、ゴールを可視化して頑張るきっかけを作っています。

Rule 4 コミュニケーションで頭の中をすっきりさせる

人に自分の悩み事を話すうちに、頭の中が整理されて解決の糸口をつかむことができます。また、会話の中でアイデアを得られる瞬間も多いので、積極的に人と話すようにしています。

大学院人間社会科学部
博士課程後期 2年
はまぐち かずと
濱口 和人さん



学生広報ディレクター
取材メモ

大学院人間社会科学部
博士課程前期 2年
笹川 佳暉(ささかわ よしき)さん

後輩とお互いの研究の話をするときは、相手に分かりやすく伝えられるように意識している濱口さん。解説することで自分の研究をより深く理解できるそうです。

HU TOPICS

2023.11
|
2024.5

大学の動き

アフガニスタンから退避していた 元留学生への全ての支援を完了しました

広島大学では、2021年8月にアフガニスタンで政変が起こった直後、アフガニスタンに帰国している本学の元留学生の受け入れを表明し、日本の大学で初めてアフガニスタン特別対策室を設置し、対応にあたってきましたが、2024年1月に全ての支援を完了しました。本学の支援対象者は、元留学生11人(家族を含めると51人)で、支援した人数の規模は日本最大級になります。具体的には、元留学生を学術研究員(6カ月)として雇ったほか、日本語教育や就職支援、住宅の確保などを行いました。その結果、元留学生11人の進路先は、6人が国内外で就職、2人が国内外で大学院進学、2人が事情によりアフガニスタン帰国、1人が現在も就職活動中です。

本学の取り組みに対して、クラウドファンディングに加え、生活必需品のご提供や寄附金そして応援のメッセージなど多くの支援をいただきました。



総合科学部

総科カフェ はじめました

総合科学部の基本理念(学際性、総合性、創造性)に基づき、学生や教員の学際的な交流促進を目指して、年に複数回、学生や教員が企画・運営する総科カフェを開催しています。



教育学部

見晴台学園に第32回 ペスタロッチー教育賞を授与しました

12月21日、民衆教育の父と称えられるヨハン・ハインリヒ・ペスタロッチーの精神に通じた、優れた教育実践者(団体)を顕彰する「第32回ペスタロッチー教育賞」を、特定非営利活動法人学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会 見晴台学園に授与しました。



経済学部

公取委による 「独占禁止法教室」が開催されました

1月30日、「独占禁止法教室」(公正取引委員会事務局中国支所主催)が開催されました。競争政策の目的や、将来学生が直面する独占禁止法との関わりなどの貴重な講義に、学生たちは社会人になる上で大変参考になると熱心に聴講しました。



文学部

2023年度 卒業論文優秀者による発表会

2023年度の卒業論文優秀者発表会が2月16日に開催され、人文学科16分野から10人が発表者に選出されました。参加者からの質問も多く、大変活発な会となりました。今から2024年度の発表会が楽しみです。



法学部

移転後初の学位記授与式を 行いました

3月23日、昼間コースが東千田キャンパスに移転して初の法学部学位記授与式を行い、法学部後援会および広楓会(同窓会)寄贈の正義の女神「テミス像」の除幕式も行いました。161人の学生が卒業を迎えました。皆さまのご健康とご活躍をお祈りいたします。



理学部

75+75周年記念事業 公開講座 映画「太陽の子」上映&トークショーを 開催します

8月3日、東広島芸術文化ホールから「太陽の子」を無料上映します。「日本の原爆研究」を背景に、時代に翻弄されながらも全力で駆け抜けた若者たちの姿を描いた映画です。映画製作のきっかけとなる日記を残された清水栄先生のご家族と黒崎監督とのトークショーも同日開催。理学部Webサイトで6月上旬から申込受付開始。

医学部

ペンシルベニア大学医学部へ 本学から初めて臨床実習学生を 派遣しました

医学科6年生の岡崎咲代子さんが、米国トップクラスのペンシルベニア大学医学部へ2月末から1カ月間、臨床実習生として初めて派遣されました。高度な英語力が必要とされるレベルの高い環境で、心臓外科を中心に実践的な知識と技術を学びました。



歯学部

孤立による社会的認知機能の 低下を改善させる薬を発見

コロナ禍での社会的交流の欠如は、うつ病の発症率を増加させました。細胞分子薬理学の横山玲特任助教、吾郷由希夫教授らは、全身麻酔薬ケタミンの鏡像異性体の一つが、島皮質という脳領域を介して、孤立による認知機能の低下とうつ病を改善させることを発見しました。



薬学部

広島県と島根県の高校生が 薬学部で研究(実験)体験

3月16日、17日の2日間、薬学に興味がある広島・島根両県の高校生を対象に、研究体験講座を開催しました。用意した7つのテーマから興味ある研究の実験操作などを体験し、病院薬剤部での取り組みや地域医療の現状についても学んでいただきました。



工学部

工学部後援会が デジタルサイネージ事業を開始しました

工学部生に向けて県内企業の情報を発信することで、企業に対する認知度を向上させ、地方を活性化する狙いです。機器は工学同窓会から寄附されました。今後も工学部・工学同窓会・工学部後援会は連携し、事業を通じて県内企業の振興に貢献します。



生物生産学部

生物生産学部棟が 生まれ変わりました

4年にわたる建物改修工事が終わり、講義・管理棟にコミュニティールームが新設されました。普段は学生が食事をとったり、くつろいだりする場ですが、大型モニターが設置され、簡単な講演会や交流会の開催も可能です。



情報科学部

講演会「情報科学と人のかかわり」を 開催しました

11月4日に広島大学創立75+75周年記念事業として講演会「情報科学と人のかかわり」を実施しました。株式会社Rejou代表取締役の菅由紀子氏と大阪大学医学部附属病院未来医療開発部データセンター長の山田知美氏をお招きし、情報科学がいかに深く人とかわり、つながっているかを具体的な事例を踏まえつつ講演いただきました。



統合生命科学研究所

統合生命科学研究所 シンポジウム2023を開催しました

2022~2023年度に着任された先生方の研究紹介を11月にミライクリエで行い、新たな分野融合型の研究につなげるための場となりました。講演の一部はオンデマンド配信中ですので、ぜひご視聴ください。



医系科学研究科

2月9日に今枝宗一郎文部科学副大臣が 霞キャンパスを視察しました

本学の取り組み等について意見交換を行った後、霞キャンパス内の施設を見学されました。副大臣は、「若手の頃にこのような先端医療機器を体験する機会があれば、高度先進医療を担う次代の医師育成に貢献できる」と期待を示されました。



人間社会科学研究所

教育データサイエンスプログラム 公開シンポジウムを開催しました

3月9日、教育DXを強力に推進するエキスパート人材を輩出する取り組みの一環として、公開シンポジウムを開催しました。2人の講師(江口和浩先生、山野則子先生)のご講演から、データとデジタル技術を用いた教育の発展について示唆をいただきました。



スマートソサイエティ実践科学研究所

SmaSo-X Challenge事業 Graduate Student研究助成を決定

本研究では超学際実践研究(クロスオーバー研究)を推進しています。クロスオーバー研究に挑戦する大学院生を対象に研究助成を公募し、5人の在籍学生に研究助成金を贈呈しました。引き続き、研究分野の垣根を超えた教員や学生の学際研究活動を支援していきます。



先進理工系科学研究科

先進理工系科学研究科SPARK! ランナー女性教員育成コース新設

女子学生のキャリア形成を積極的に支援し、広島大学の女性教員として社会人の第一歩を踏み出してもらいたいと考え、女性教員育成コースを新設しました。このコースでは、博士学位取得後、選抜助教に採用されるため、研究に集中できます。教員採用後も学生時代と同じ研究環境のため、研究者としてのスタートを速やかに切ることができます。



“広大キャンパスの「イマ」をお届け” キャンパス NOW

広島大学のレストラン・カフェ紹介

広島大学には、食堂、カフェ、ベーカリーなどのお店がたくさんあります。これらのお店は学生や教職員だけでなく、地域の方々など誰でも利用することができます。今号では、その中から一部のレストランとカフェをご紹介します！

東広島キャンパス



マーメイドカフェ

東広島キャンパスの中央図書館付近に2007年にオープンしたマーメイドカフェ。建物は本学建築学専攻の元准教授の岡野真氏が基本設計しました。ホール100席、外テラス23席を備え、ランチBOXやサンドウィッチなどのメニューが人気です。フランス語で「広場」を意味する la place (ラ・プラス)の愛称でも親しまれています。



広島大学の レストラン・カフェ一覧

【東広島キャンパス】

三河屋珈琲 / マーメイドカフェ / 北1食堂・レストラン / 北2食堂・ベーカリー / 東福利会館食堂 / 西2食堂 / 大会館食堂

霞キャンパス

凌雲棟カフェ

霞キャンパスの凌雲棟1階にオープンした本学初のセルフサービスカフェです。コーヒー、エスプレッソ、ココアなどを楽しむことができます。焼き立てパンやお弁当などのワゴン販売(11:30-13:00)もしており、第1・第3水曜には手作りスイーツのサービスも。リフレッシュできる癒やしの空間として多くの人に利用されています。



東千田キャンパス



バナナダイニング

法学部の広島市移転を機に2023年にリニューアルオープンしたバナナダイニング。カラフルな椅子が目を引きまます。「バナナ」にはハワイ語で「集まる場所」という意味があります。基本的にメニューは週替わりで、年に数回「アジアフェア」「北海道フェア」などのフェアも実施しています。レシートにはカロリーや塩分、3群点数法による栄養点数表示をする「食育食堂」です。



【霞キャンパス】

ヴィオラダイニング / 凌雲棟カフェ

【東千田キャンパス】

バナナダイニング

創立75+75周年特集連載！

第3弾 広島大学75+75周年記念事業「広島大学in関西」を開催します！

6月22日、広島大学75+75周年記念事業として、大阪市北区のグランフロント大阪内にあるコングレコンベンションセンターにて「広島大学in関西」を開催します。本事業は、広島大学の学部・大学院に関心のある生徒・学生さんとその保護者の方、高等学校で進路指導を担当される先生方、在学生の保護者・ご家族、企業の方、その他一般の方に広島大学を知っていただくことを目的としています。先端研究紹介、入試説明、在学生の体験談など広島大学の情報を得られる企画が満載です。昨年6月に東京都内のTKP新橋カンファレンスセンターにて開催した「広島大学in東京」では、定員を上回る約200人の参加があり、大盛況となりました。今回は開催地を関西に変え、第二弾の開催となります。皆さま、奮ってご参加ください。

2023年6月開催
広島大学 in 東京の様子



就職担当教員との個別面談



越智学長による開会挨拶



在学生の体験談



このほか、さまざまなイベントの開催が予定されています。詳しくはこちらをご覧ください。



Reader's View

HU photos

Instagramで#広島大学の付いた投稿からお届けします。



2024.2.26

#広島大学 #広大ヨット部
#海好き

投稿者:hiroshima_uni.yacht2024さん

HU ism

広島大学にまつわる、読者から届いたちょっといい話をご紹介します。

息子が広島大学に通っています。自宅のある静岡県からはなかなか遠く、頻りに東広島市を訪れることはできませんが、季節ごとに移り変わる自然豊かなキャンパスで充実した時間を過ごしていることを思いながら日々過ごしています。車で西条インターを降りると地元に戻ってきたようにほっとした気持ちになります。次に東広島市を訪れることが待ち遠しいです。

ペンネーム:kikiさん(静岡県浜松市・50歳)

HU photos

広島大学にまつわる写真を#広島大学を付けてInstagramに投稿してください。テーマは何でもOK! 素敵な写真をお待ちしています。

HU ism

広島大学にまつわる逸話やエピソードを募集します。あの頃の懐かしい思い出話や誰かに言いたくなる広島大学の秘密を教えてください。

投稿
募集中!

投稿はこちら



投稿が掲載された方には
**広島大学
オフィシャルグッズ
「トートバッグ」をプレゼント!**
※デザインは選べません。



WEBアンケートにご協力ください

読者の皆さまからのご意見、ご要望、情報提供をお待ちしております。
いただいたアンケート内容は、今後の誌面づくりに活用させていただきます。



WEBアンケートはこちら

HU-plus 検索

読者プレゼント

アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で合計16名様にプレゼント!!

※応募締切:2024年7月31日必着 厳正な抽選の上、商品の発送をもって当選の発表にかえさせていただきます。

A 平山郁夫美術館
オリジナルグッズ 平山郁夫レターセット
※デザインは選べません



3名様

B 平山郁夫美術館
ペア招待券



3名様

C 広島大学
フェニックスマーク・マスコットキャラクター
「ひろティー」シール



10名様

食べたいものを
MAZE! MAZE!
するだけ!

あっ!
**おいしい
カンタン!**

OTAFUKU オタフクソース

2024年 広島大学75+75周年記念
広島大学弁当

学生のアイデアをもとに
広島大学ゆかりの食材を贅沢に詰め込みました

白飯菜の花サラダソルト
カイワレとじゃこのお浸し
クロダイのムニエル
タコのお好焼風キッシュ
八潮路果せとこまち

広島大学 × ひろしま駅弁

◎ご注文は右記 広島駅弁当 EC サイトから
※売上の一部は広島大学基金へ寄付されます

広島銘菓
せとこまち

広島大学・尾道市と
弊社にしき堂が
共同開発した
広島銘菓「せとこまち」を
ご賞味ください。

にしき堂

本店/広島市東区光町1丁目13-23 ☎(082)262-3131 (代)
https://www.nishikido.co.jp Eメール:info@nishikido.net
TEL ☎0120-979-161 (8:00-18:00) FAX ☎0120-963-161

広島大学への寄附にご協力いただき、深く感謝申し上げます。

広島大学基金

※広島大学が躍動し広島のを活性化させる基金 (広島大学75+75周年に向けて)・応急学生支援金を含む

高額のご寄附をいただいた方(2024年1月まで)

●個人10億円以上 法人20億円以上

佐竹 利子 様 「特別榮譽学賞」

●個人5億円以上 法人10億円以上

岡田外科医院 様 「榮譽学賞」

●個人5000万円以上 法人1億円以上

公益財団法人 広島大学教育研究支援財団 理事長 佐竹 利子 様 株式会社 サタケ 様 「学賞」

一般財団法人 緑風会 様 「学賞」

財団法人 渋谷育英会 理事長 小丸 法之 様 「学賞」

池田 英明 様 「学賞」

矢野 博文 様 「学賞」

●個人1000万円以上 法人2000万円以上

医療法人社団 浜中皮膚科クリニック 理事長 浜中 和子 様 「名誉校友」

書馬 輝夫 様 「名誉校友」

医療法人あかね会 理事長 土谷 治子 様 「名誉校友」

株式会社広島銀行 代表取締役頭取 部谷 俊雄 様 「名誉校友」

医療法人たんぽぽ会 理事長 大嶋 俊一 様 「名誉校友」

小野 光代 様 「名誉校友」

医療法人社団 鶴島平松病院 理事長 平松 廣夫 様 「名誉校友」「冠寄附者」

児玉 治 様 「名誉校友」

医療法人社団 昭信会 頼島産婦人科病院 理事長 頼島 信 様 「名誉校友」

東洋観光グループHD 日本基準寝具株式会社 代表取締役 今井 誠則 様 「名誉校友」

勝矢 博 様 「名誉校友」

越智 光夫 様 「名誉校友」「冠寄附者」

平尾 泰保 様 「名誉校友」「冠寄附者」

猫本 宏司 様 「名誉校友」「冠寄附者」

鶴野 俊雄 様 「名誉校友」

松川 博之 様 「名誉校友」

三嶋 弘 様 「名誉校友」

徳永 彰 様 「名誉校友」

星山 政昭 様 「名誉校友」

児玉 暁子 様 「名誉校友」

田中 隆壯 様 「名誉校友」

藤岡 道治 様 「名誉校友」

●個人500万円以上 法人1000万円以上

医療法人社団 仁慈会 理事長 安田 克樹 様 「名誉校友」「冠寄附者」

オタフクソース株式会社 取締役会長 佐々木 直義 様 「名誉校友」「冠寄附者」

株式会社 バルコム 代表取締役 山坂 哲郎 様 「名誉校友」「冠寄附者」

株式会社 築地 代表取締役社長 平尾 眞裕美 様 「名誉校友」

医療法人おち眼科医院 理事長 越智 温子 様 「名誉校友」

医療法人社団 玄同会 理事長 小島 敬太郎 様 「名誉校友」

医療法人 せのがわ 理事長 津久江 一郎 様 「名誉校友」

医療法人 多布施クリニック 理事長 諸隈 啓子 様 「名誉校友」

株式会社 合人社グループ 代表取締役 福井 滋 様 「名誉校友」

株式会社 ニビルサービス 代表取締役 濱野 上隆志 様 「名誉校友」

株式会社 メンテックワールド 代表取締役社長 小松 節子 様 「名誉校友」

医療法人 辰川会 理事長 藤田 憲一 様 「名誉校友」

医療法人社団 昭信会 理事長 頼島 信 様 「名誉校友」

株式会社 広島銀行 代表取締役 部谷 俊雄 様 「名誉校友」

医療法人 たんぽぽ会 理事長 大嶋 俊一 様 「名誉校友」

小野 光代 様 「名誉校友」

医療法人 鶴島平松病院 理事長 平松 廣夫 様 「名誉校友」「冠寄附者」

児玉 治 様 「名誉校友」

医療法人 昭信会 頼島産婦人科病院 理事長 頼島 信 様 「名誉校友」

東洋観光グループHD 日本基準寝具株式会社 代表取締役 今井 誠則 様 「名誉校友」

勝矢 博 様 「名誉校友」

越智 光夫 様 「名誉校友」「冠寄附者」

平尾 泰保 様 「名誉校友」「冠寄附者」

猫本 宏司 様 「名誉校友」「冠寄附者」

鶴野 俊雄 様 「名誉校友」

松川 博之 様 「名誉校友」

三嶋 弘 様 「名誉校友」

徳永 彰 様 「名誉校友」

星山 政昭 様 「名誉校友」

児玉 暁子 様 「名誉校友」

田中 隆壯 様 「名誉校友」

藤岡 道治 様 「名誉校友」

●個人100万円以上 法人100万円以上

医療法人社団 楓会 林病院 理事長 林 淳二 様 「冠寄附者」

医療法人 団みめぐみ会 サンクリニック 理事長 中村 雄二 様 「冠寄附者」

医療法人 恒和会 松石病院 理事長 松石 頼明 様 「冠寄附者」

株式会社 紀陽 代表取締役社長 寒川 起佳 様 「冠寄附者」

株式会社 村上農園 代表取締役 村上 清貴 様 「冠寄附者」

株式会社 デイクレ 代表取締役社長 山本 浩 様 「冠寄附者」

戸田工業株式会社 代表取締役社長 實来 茂 様 「冠寄附者」

公益社団法人 内外いぐい会 代表理事 高橋 喜人 様 「冠寄附者」

医療法人 社団 伯英会 のぞみ整形外科 理事長 金田 瑛司 様 「冠寄附者」

株式会社 にしき堂 代表取締役社長 大谷 博国 様 「冠寄附者」

医療法人 さかみきの木会 理事長 坂 信一 様 「冠寄附者」

医療法人 明和会 北広島病院 理事長 石井 知行 様 「冠寄附者」

医療法人 わかさ会 理事長 石井 知行 様 「冠寄附者」

株式会社 日本クライメイトシステムズ 代表取締役社長 小嶋 明 様 「冠寄附者」

医療法人社団 関仁会 理事長 石井 知行 様 「冠寄附者」

医療法人 社団 昭信会 理事長 頼島 信 様 「名誉校友」

株式会社 広島銀行 代表取締役 部谷 俊雄 様 「名誉校友」

医療法人 たんぽぽ会 理事長 大嶋 俊一 様 「名誉校友」

小野 光代 様 「名誉校友」

医療法人 鶴島平松病院 理事長 平松 廣夫 様 「名誉校友」「冠寄附者」

児玉 治 様 「名誉校友」

医療法人 昭信会 頼島産婦人科病院 理事長 頼島 信 様 「名誉校友」

東洋観光グループHD 日本基準寝具株式会社 代表取締役 今井 誠則 様 「名誉校友」

勝矢 博 様 「名誉校友」

越智 光夫 様 「名誉校友」「冠寄附者」

平尾 泰保 様 「名誉校友」「冠寄附者」

猫本 宏司 様 「名誉校友」「冠寄附者」

鶴野 俊雄 様 「名誉校友」

松川 博之 様 「名誉校友」

三嶋 弘 様 「名誉校友」

徳永 彰 様 「名誉校友」

星山 政昭 様 「名誉校友」

児玉 暁子 様 「名誉校友」

田中 隆壯 様 「名誉校友」

藤岡 道治 様 「名誉校友」

広島大学 歯学部同窓会 理事長 原田 昭 様 「冠寄附者」

医療法人 社団 スマイル 博愛クリニック 理事長 高杉 啓一郎 様 「冠寄附者」

医療法人 S.R.C. 中光整形外科リハビリクリニック 院長 中光 清志 様 「冠寄附者」

Micron Technology Foundation, Inc. 代表取締役社長 寒川 起佳 様 「冠寄附者」

医療法人 ピーアイエー 理事長 松本 啓 様 「冠寄附者」

医療法人 KOC 金谷整形外科クリニック 院長 金谷 篤 様 「冠寄附者」

医療法人 明英会 代表取締役社長 實来 茂 様 「冠寄附者」

公益社団法人 内外いぐい会 代表理事 高橋 喜人 様 「冠寄附者」

医療法人 社団 伯英会 のぞみ整形外科 理事長 金田 瑛司 様 「冠寄附者」

株式会社 にしき堂 代表取締役社長 大谷 博国 様 「冠寄附者」

医療法人 さかみきの木会 理事長 坂 信一 様 「冠寄附者」

医療法人 明和会 北広島病院 理事長 石井 知行 様 「冠寄附者」

医療法人 わかさ会 理事長 石井 知行 様 「冠寄附者」

株式会社 日本クライメイトシステムズ 代表取締役社長 小嶋 明 様 「冠寄附者」

医療法人 社団 関仁会 理事長 石井 知行 様 「冠寄附者」

医療法人 社団 昭信会 理事長 頼島 信 様 「名誉校友」

株式会社 広島銀行 代表取締役 部谷 俊雄 様 「名誉校友」

医療法人 たんぽぽ会 理事長 大嶋 俊一 様 「名誉校友」

小野 光代 様 「名誉校友」

医療法人 鶴島平松病院 理事長 平松 廣夫 様 「名誉校友」「冠寄附者」

児玉 治 様 「名誉校友」

医療法人 昭信会 頼島産婦人科病院 理事長 頼島 信 様 「名誉校友」

東洋観光グループHD 日本基準寝具株式会社 代表取締役 今井 誠則 様 「名誉校友」

勝矢 博 様 「名誉校友」

越智 光夫 様 「名誉校友」「冠寄附者」

平尾 泰保 様 「名誉校友」「冠寄附者」

猫本 宏司 様 「名誉校友」「冠寄附者」

鶴野 俊雄 様 「名誉校友」

松川 博之 様 「名誉校友」

三嶋 弘 様 「名誉校友」

徳永 彰 様 「名誉校友」

星山 政昭 様 「名誉校友」

児玉 暁子 様 「名誉校友」

田中 隆壯 様 「名誉校友」

藤岡 道治 様 「名誉校友」

株式会社 中国新聞社 代表取締役社長 岡谷 義則 様 「冠寄附者」

協同出版株式会社 代表取締役 小貫 輝雄 様 「冠寄附者」

中外テクノス株式会社 代表取締役社長 中村 一朗 様 「冠寄附者」

株式会社 アルノート 代表取締役社長 中沢 冬芽 様 「冠寄附者」

弁護士 緒方 俊平 様 「冠寄附者」

株式会社 アルノート 代表取締役社長 中沢 冬芽 様 「冠寄附者」

Micron Technology Foundation, Inc. 代表取締役社長 寒川 起佳 様 「冠寄附者」

医療法人 ピーアイエー 理事長 松本 啓 様 「冠寄附者」

医療法人 KOC 金谷整形外科クリニック 院長 金谷 篤 様 「冠寄附者」

医療法人 明英会 代表取締役社長 實来 茂 様 「冠寄附者」

公益社団法人 内外いぐい会 代表理事 高橋 喜人 様 「冠寄附者」

医療法人 社団 伯英会 のぞみ整形外科 理事長 金田 瑛司 様 「冠寄附者」

株式会社 にしき堂 代表取締役社長 大谷 博国 様 「冠寄附者」

医療法人 さかみきの木会 理事長 坂 信一 様 「冠寄附者」

医療法人 明和会 北広島病院 理事長 石井 知行 様 「冠寄附者」

医療法人 わかさ会 理事長 石井 知行 様 「冠寄附者」

株式会社 日本クライメイトシステムズ 代表取締役社長 小嶋 明 様 「冠寄附者」

医療法人 社団 関仁会 理事長 石井 知行 様 「冠寄附者」

医療法人 社団 昭信会 理事長 頼島 信 様 「名誉校友」

株式会社 広島銀行 代表取締役 部谷 俊雄 様 「名誉校友」

医療法人 たんぽぽ会 理事長 大嶋 俊一 様 「名誉校友」

小野 光代 様 「名誉校友」

医療法人 鶴島平松病院 理事長 平松 廣夫 様 「名誉校友」「冠寄附者」

児玉 治 様 「名誉校友」

医療法人 昭信会 頼島産婦人科病院 理事長 頼島 信 様 「名誉校友」

東洋観光グループHD 日本基準寝具株式会社 代表取締役 今井 誠則 様 「名誉校友」

勝矢 博 様 「名誉校友」

越智 光夫 様 「名誉校友」「冠寄附者」

平尾 泰保 様 「名誉校友」「冠寄附者」

猫本 宏司 様 「名誉校友」「冠寄附者」

鶴野 俊雄 様 「名誉校友」

松川 博之 様 「名誉校友」

三嶋 弘 様 「名誉校友」

徳永 彰 様 「名誉校友」

星山 政昭 様 「名誉校友」

児玉 暁子 様 「名誉校友」

田中 隆壯 様 「名誉校友」

藤岡 道治 様 「名誉校友」

協同出版株式会社 代表取締役 小貫 輝雄 様 「冠寄附者」

中外テクノス株式会社 代表取締役社長 中村 一朗 様 「冠寄附者」

株式会社 アルノート 代表取締役社長 中沢 冬芽 様 「冠寄附者」

弁護士 緒方 俊平 様 「冠寄附者」

株式会社 アルノート 代表取締役社長 中沢 冬芽 様 「冠寄附者」

Micron Technology Foundation, Inc. 代表取締役社長 寒川 起佳 様 「冠寄附者」

医療法人 ピーアイエー 理事長 松本 啓 様 「冠寄附者」

医療法人 KOC 金谷整形外科クリニック 院長 金谷 篤 様 「冠寄附者」

医療法人 明英会 代表取締役社長 實来 茂 様 「冠寄附者」

公益社団法人 内外いぐい会 代表理事 高橋 喜人 様 「冠寄附者」

医療法人 社団 伯英会 のぞみ整形外科 理事長 金田 瑛司 様 「冠寄附者」

株式会社 にしき堂 代表取締役社長 大谷 博国 様 「冠寄附者」

医療法人 さかみきの木会 理事長 坂 信一 様 「冠寄附者」

医療法人 明和会 北広島病院 理事長 石井 知行 様 「冠寄附者」

医療法人 わかさ会 理事長 石井 知行 様 「冠寄附者」

株式会社 日本クライメイトシステムズ 代表取締役社長 小嶋 明 様 「冠寄附者」

医療法人 社団 関仁会 理事長 石井 知行 様 「冠寄附者」

医療法人 社団 昭信会 理事長 頼島 信 様 「名誉校友」

株式会社 広島銀行 代表取締役 部谷 俊雄 様 「名誉校友」

医療法人 たんぽぽ会 理事長 大嶋 俊一 様 「名誉校友」

小野 光代 様 「名誉校友」

医療法人 鶴島平松病院 理事長 平松 廣夫 様 「名誉校友」「冠寄附者」

児玉 治 様 「名誉校友」

医療法人 昭信会 頼島産婦人科病院 理事長 頼島 信 様 「名誉校友」

東洋観光グループHD 日本基準寝具株式会社 代表取締役 今井 誠則 様 「名誉校友」

勝矢 博 様 「名誉校友」

越智 光夫 様 「名誉校友」「冠寄附者」

平尾 泰保 様 「名誉校友」「冠寄附者」

猫本 宏司 様 「名誉校友」「冠寄附者」

鶴野 俊雄 様 「名誉校友」

松川 博之 様 「名誉校友」

三嶋 弘 様 「名誉校友」

徳永 彰 様 「名誉校友」

星山 政昭 様 「名誉校友」

児玉 暁子 様 「名誉校友」

田中 隆壯 様 「名誉校友」

藤岡 道治 様 「名誉校友」

協同出版株式会社 代表取締役 小貫 輝雄 様 「冠寄附者」

中外テクノス株式会社 代表取締役社長 中村 一朗 様 「冠寄附者」

株式会社 アルノート 代表取締役社長 中沢 冬芽 様 「冠寄附者」

弁護士 緒方 俊平 様 「冠寄附者」

株式会社 アルノート 代表取締役社長 中沢 冬芽 様 「冠寄附者」

Micron Technology Foundation, Inc. 代表取締役社長 寒川 起佳 様 「冠寄附者」

医療法人 ピーアイエー 理事長 松本 啓 様 「冠寄附者」

医療法人 KOC 金谷整形外科クリニック 院長 金谷 篤 様 「冠寄附者」

医療法人 明英会 代表取締役社長 實来 茂 様 「冠寄附者」

公益社団法人 内外いぐい会 代表理事 高橋 喜人 様 「冠寄附者」

医療法人 社団 伯英会 のぞみ整形外科 理事長 金田 瑛司 様 「冠寄附者」

株式会社 にしき堂 代表取締役社長 大谷 博国 様 「冠寄附者」

医療法人 さかみきの木会 理事長 坂 信一 様 「冠寄附者」

医療法人 明和会 北広島病院 理事長 石井 知行 様 「冠寄附者」

医療法人 わかさ会 理事長 石井 知行 様 「冠寄附者」

株式会社 日本クライメイトシステムズ 代表取締役社長 小嶋 明 様 「冠寄附者」

医療法人 社団 関仁会 理事長 石井 知行 様 「冠寄附者」

医療法人 社団 昭信会 理事長 頼島 信 様 「名誉校友」

株式会社 広島銀行 代表取締役 部谷 俊雄 様 「名誉校友」

医療法人 たんぽぽ会 理事長 大嶋 俊一 様 「名誉校友」



キャンパス
今 昔

霞キャンパス

広島市内の霞キャンパスには、医学部・歯学部・薬学部・医系科学研究科が設置されています。かつて建ち並んでいた赤レンガの建物は組織の拡充に伴い建て替えられ、現在では最新設備を備えた教育施設や大学病院、研究施設が連なっています。最先端医療の教育・研究・臨床が一堂に集う霞キャンパスは、これからも優れた医療人を育むメディカルセンターとして発展していきます。



広島大学の昔の写真を募集します。

青春を過ごした思い出の場所や、当時の雰囲気を感じられる風景など、ご自宅に眠る広島大学の写真を、エピソードと共に送ってください。読者の皆さんと一緒に昔を懐かしみましょう。ご応募はP28のHU ism投稿フォームまで。

広島大学 統合報告書

本学の活動を分かりやすくお伝えし、ご理解いただくことを目的とした「広島大学統合報告書 2023」を発行しました。本学の目指す未来とその実現に向けた各取り組みの成果を本学の特色や強みと共に紹介しています。ぜひご覧ください!また、アンケートにご協力いただけますと幸いです。



デジタルブックやアンケートはこちらからご覧いただけます



100年後にも世界で光り輝く大学へ

広島大学



編集・発行：広島大学 広報室

〒739-8511 東広島市鏡山1-3-2 TEL:082-424-4383 FAX:082-424-6040

E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

https://www.hiroshima-u.ac.jp

